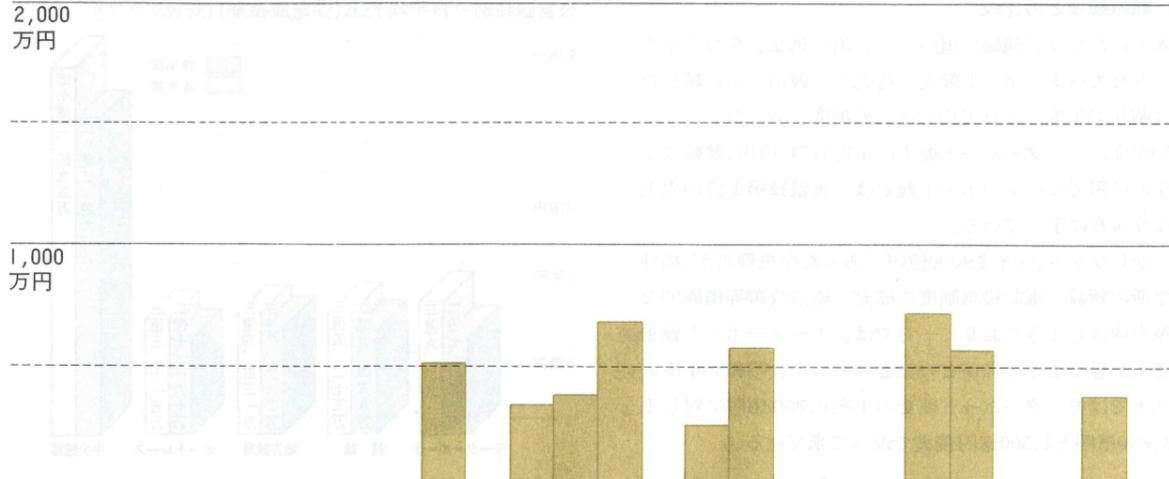


■競走場別一日平均売上



競走場別1日最高売上ベスト3 ①位 芦屋(1,382万円) ②位 若松(1,375万円) ③位 尼崎(1,350万円)

■公営競技別売上額一覧表

競技名	27年度売上	一日平均売上
モーターボート	2,421,130,3	4,921,0
競輪	57,107,742,9	13,497,4
中央競馬	8,642,724,1	45,488,0
地方競馬	19,291,270,3	8,318,8
オートレース	1,090,597,7	7,081,8

●モーターボート競走初日の売上は260万円

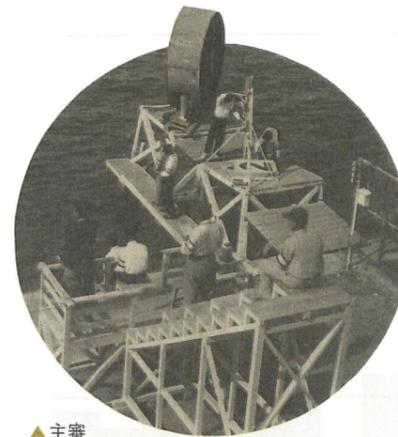
今や、年間売上1兆6,000億円と公営競技随一の売上を誇るモーターボート競走であるが、昭和27年4月6日、大村競走場初開催初日の売上はわずか260万1,800円、3日間の節間売上616万1,900円であった。この年は大村を含め9競走場が開場したが一日平均売上は492万円、平均売上第一位は若松競走場の726万円であった。

昭和27年度初開催競走場初日売上 (単位:円)

競走場	初開催月日	売上	入場
大村	4.6	2,601,800	8,226
津	7.4	4,057,500	不明
琵琶湖	7.18	2,968,400	不明
狭山	9.5	不明	不明
尼崎	9.14	3,860,100	不明
丸亀	10.31	2,331,100	5,656
芦屋	11.7	2,590,500	2,905
若松	11.12	3,806,400	3,033
児島	11.22	2,023,100	5,759

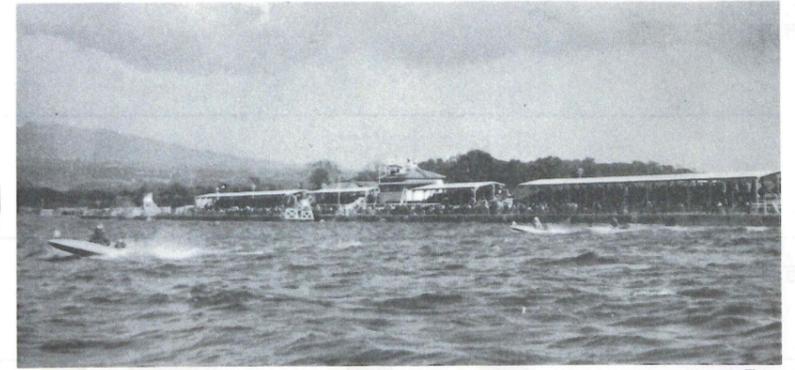
世相トピックス

- 政治・経済 血のメーデー事件 綿糸大暴落
日本IMFに加盟 石油類の統制撤廃
- 社会・一般 「君の名は」放送開始、白井義男フライ級世界チャンピオンとなる。十勝沖地震発生
- 流行語 貧乏人は麦を食え、見てみてみ、恐妻
- 流行歌 リンゴ追分 モンテルバの夜は更けて
- その他 真知子巻き流行 スクーター流行



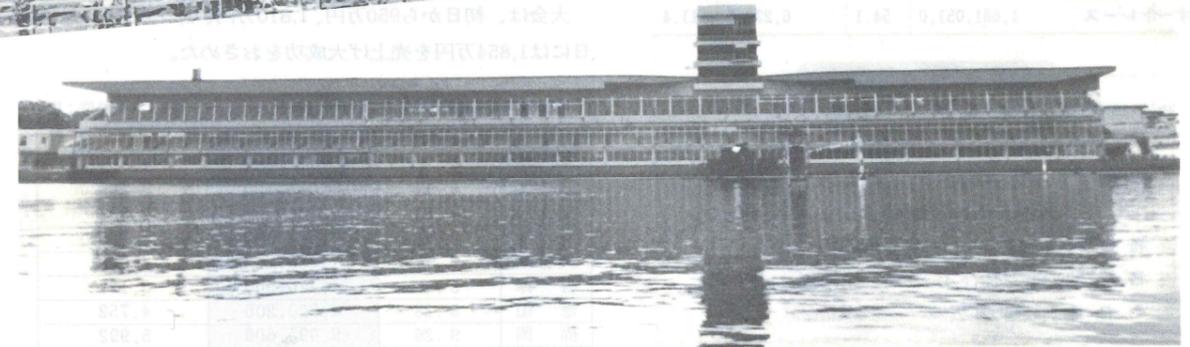
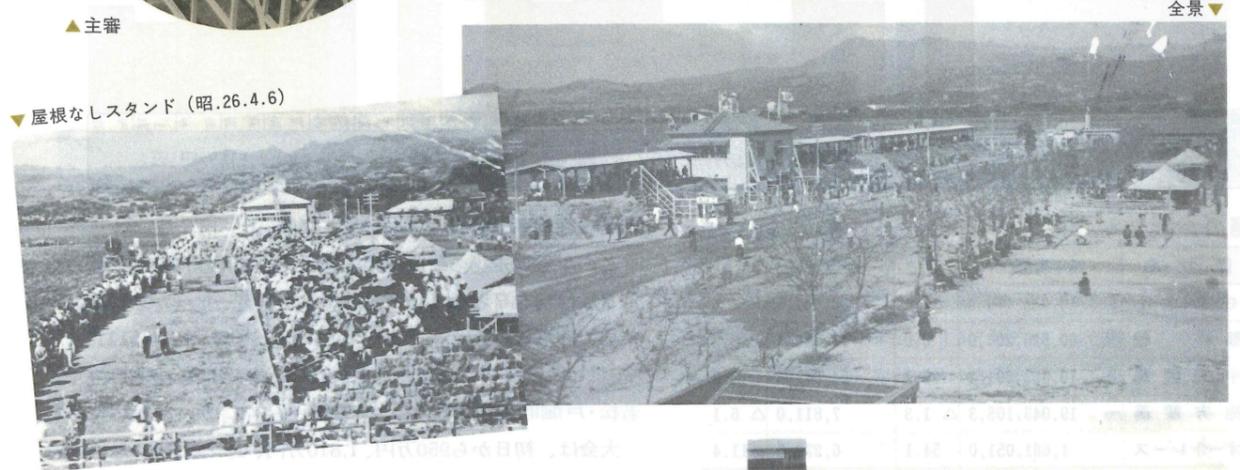
▲主審

▼スタンド



▼全景

▼屋根なしスタンド(昭.26.4.6)



昭和56年7月撮影▲

■競走場別一日平均売上

2,000
万円

1,000
万円

競走場 桐生 戸田 江戸川 平和島 多摩川 浜名湖 蒲郡 常滑 津 三国 琵琶湖 住之江 尼崎 鳴門 丸亀 児島 宮島 徳山 下関 若松 芦屋 福岡 唐津 大村 半田

競走場別1日最高売上ベスト3 ①位 福岡(1,865万円) ②位 若松(1,854万円) ③位 浜名湖(1,518万円)

■公営競技別売上額一覧表

△減 単位=百円

競技名	28年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	10,938,180.6	351.8	5,541.1	12.6
競輪	60,526,206.9	6.0	13,930.1	3.2
中央競馬	10,863,891.4	25.7	54,049.2	18.8
地方競馬	19,043,108.3	△1.3	7,811.0	△6.1
オートレース	1,681,051.0	54.1	6,272.5	△11.4

世相トピックス

- 政治・経済 吉田首相「バカヤロー」解散
ソ連から第一次帰還船舞鶴に入港
- 社会・一般 テレビ放送開始、街頭テレビに人気集まる
八頭身美人 伊藤絹子ミスユニバース3位
- 流行語 サイザンス 家庭の事情
- 流行歌 街のサンドイッチマン 五木の子守歌
- その他 性典映画ブーム

●若松競走場で第1回ダービーを開催

この年も競走場の新設が相継ぎ、開設競走場は17場、開催日数は1974日となり、11月には第1回ダービーが若松競走場で開催された。ダービーの人気は上々で、初日の11月7日にはこの日のために新設された「奥洞海駅」着の汽車で、若松・戸畑間連絡船で、バスでと早朝からファンが詰めかけた。

大会は、初日から950万円、1,810万円、1,321万円、最終日には1,854万円を売上げ大成功をおさめた。

昭和28年度初開催競走場初日売上 (単位:円)

競走場	初開催月日	売上	入場
半田	4.4	不明	不明
三国	4.14	1,083,300	3,200
鳴門	4.24	2,100,500	2,881
常滑	7.10	3,808,500	3,250
浜名湖	8.7	1,558,700	4,000
唐津	8.7	1,416,500	3,197
徳山	8.28	2,320,200	4,752
福岡	9.26	9,095,600	5,992

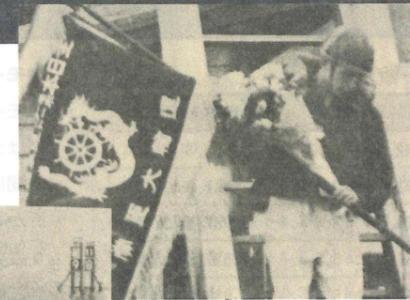
▼昭和56年7月撮影



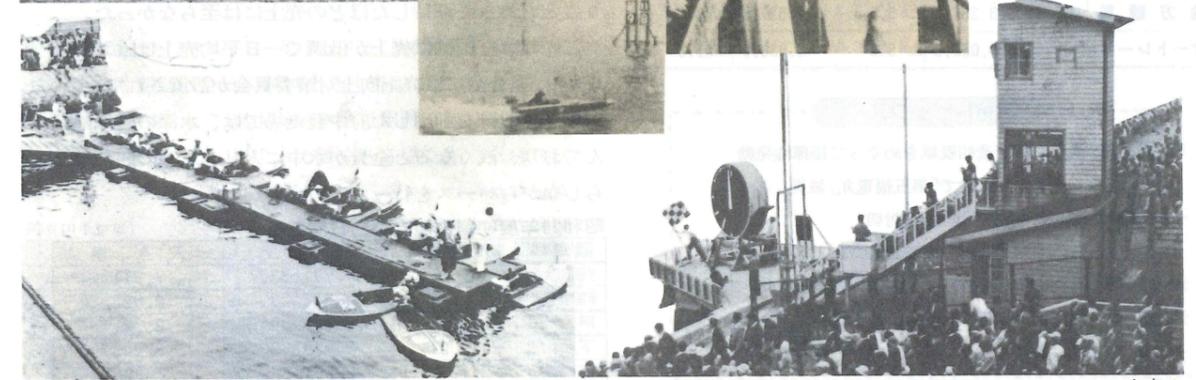
▲全景



▼入場門



◀友永慶近選手とゴール写真 (第1回全日本選手権)



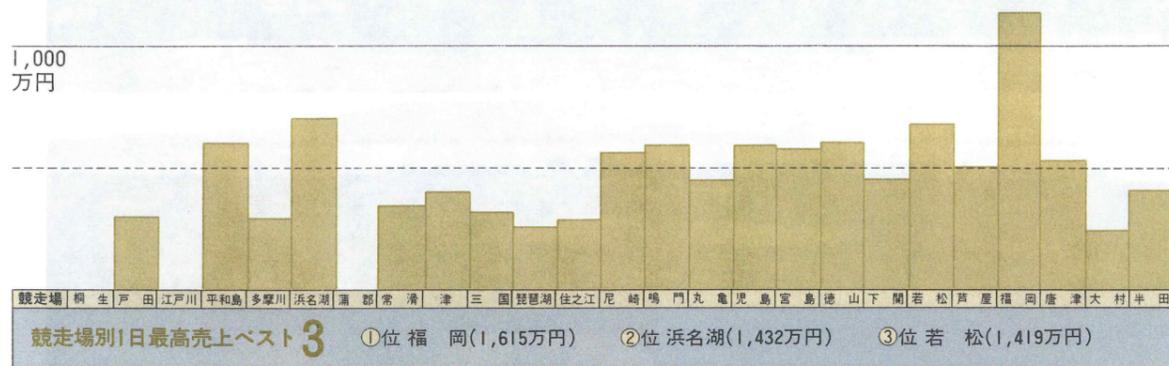
▲ビット

主審 ▲

■競走場別一日平均売上

2,000
万円

1,000
万円



■公営競技別売上額一覧表

△減 単位=百円

競技名	29年度売上	対前 年比	一日平均売上	対前 年比
モーターボート	13,843,882.9	26.6	5,078.5	△ 8.4
競輪	58,771,991.0	△ 2.9	13,541.9	△ 2.8
中央競馬	11,229,310.0	3.4	53,987.1	△ 0.1
地方競馬	18,013,258.8	△ 5.7	7,527.5	△ 3.6
オートレース	1,590,050.3	△ 5.5	4,938.0	△ 21.3

世相トピックス

- 政治・経済 大養首相、造船疑獄をめぐって指揮権発動
ビキニ水爆実験で「第五福竜丸」被災
- 一般・社会 空想科学映画「ゴジラ」封切
青函連絡船「洞爺丸」転覆し、1517名死亡
- 流行語 ロマンスグレー 死の灰 スポンサー
- 流行歌 高原列車は行く お富さん 黒百合の歌
- その他 プロレスブーム ヘップバーン旋風

●モーターボート競走関東へ進出

モーターボート競走は、東へ東へと拡大を続け、3年目には大森、府中、戸田と関東への進出を果たした。関係者の中には、関東こそ勝負の場とする考えもあったようだが折からの経済不況と馴染みのないモーターボート競走ということもあって期待したほどの売上には至らなかった。

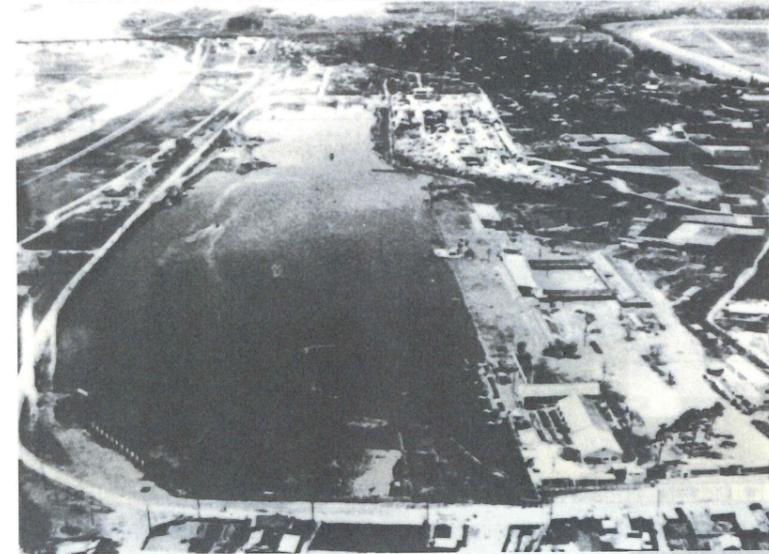
この年は全国的に売上が低調で一日平均売上は500万円に下がり、連合会には売上向上対策委員会が設置されていた。

砂利採取跡を利用した府中競走場では、水深の確保に悩んでおり、浅くなると全員が水中に入り、水底の凹凸をならしながらレースを行ったという。

昭和29年度初開催競走場初日売上 (単位:円)

競走場	初開催月日	売 上	入 場
平和島(大森)	6.5	8,891,300	7,211
多摩川(府中)	6.9	5,356,200	2,925
戸 田	10.14	4,434,000	2,721
下 関	10.22	3,979,800	3,205
宮 島	11.1	3,661,800	1,996

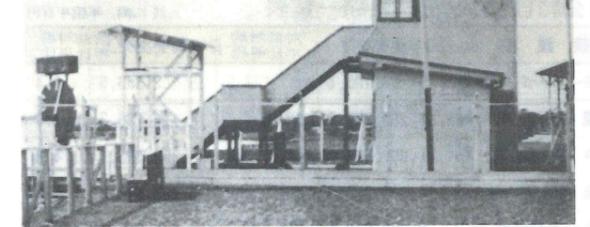
▼昭和33年全景



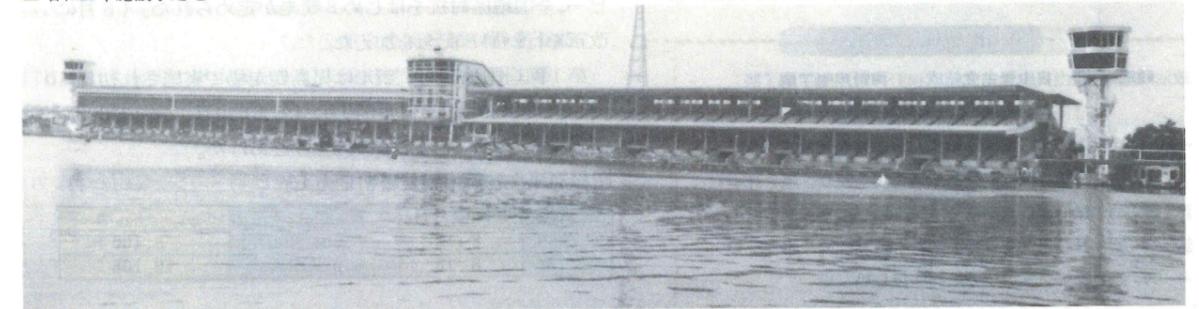
▲宣伝



▲昭和29年施設予定地



▲主審

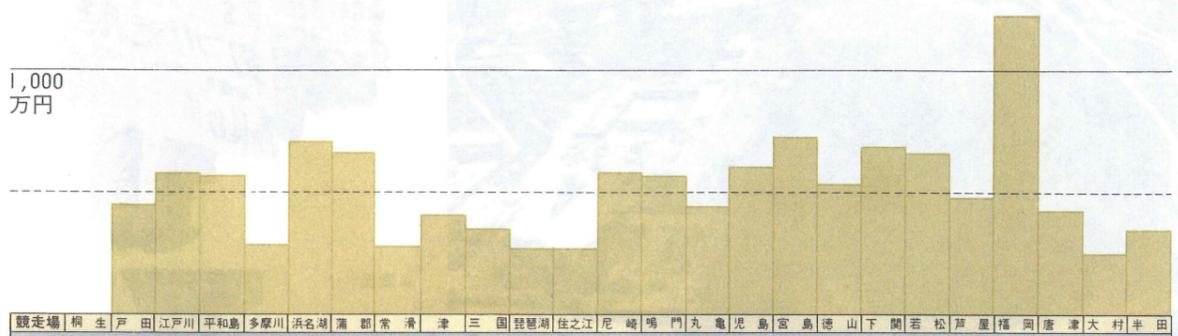


昭和56年7月撮影 ▲

■競走場別一日平均売上

2,000
万円

1,000
万円



競走場別1日最高売上ベスト3 ①位福岡(2,697万円) ②位江戸川(1,633万円) ③位浜名湖(1,541万円)

■公営競技別売上額一覧表

△減 単位=百万

競技名	30年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	17,100,151.6	23.5	5,253.5	3.4
競輪	57,269,541.9	△ 2.6	14,126.7	4.3
中央競馬	11,097,415.3	△ 1.2	56,332.1	4.3
地方競馬	17,310,226.3	△ 3.9	7,585.6	0.8
オートレース	2,072,959.6	30.3	6,096.9	23.5

世相トピックス

- 政治・経済 自由民主党結成 河野声明閣議了解
経済白書副題「もはや戦後ではない」
- 一般・社会 1円玉登場 パチンコの連発式禁止
紫雲丸、宇高連絡船と衝突し沈没、選手死亡
- 流行語 最低ネ、最高ネ 頼りにしてまっせ
- 流行歌 月がとつても青いから 別れの一本杉
- その他 ラッシュアワーに押し屋登場

●児島で第1回全国地区対抗競走

経済不況が続き、売上は昨年度に引き続き低迷していた。モーターボート競走では、各地で外洋長距離レースを行ない、その勝者を当てさせたり、宣伝ポスターに趣向をこらす等宣伝につとめていたが、競輪の1日平均1,400万円に対し競艇は半分にも満たない520万円であった。

この年の4月1日「特別競艇実施要領」が制定され、ダービー、全国地区対抗をはじめ8競走が定められた。(6月に改正を行いMB記念を加えた。)

第1回全国地区対抗競走は児島競走場で実施され初日710万、2日目620万、3日目940万、4日目640万、最終日900万円と一般競走の30%増しの売上げをあげた。

昭和30年度初開催競走場初日売上 (単位:円)

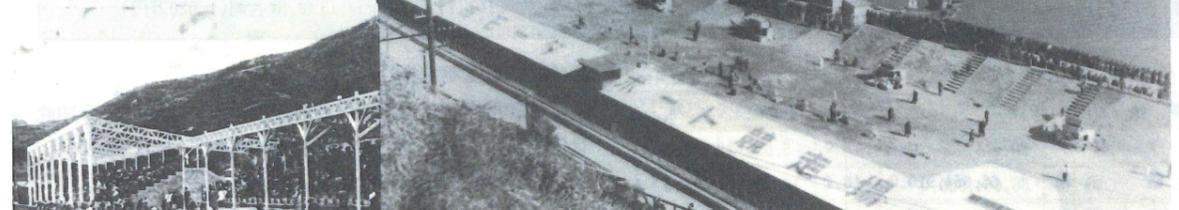
競走場	初開催月日	売上	入場
江戸川	8.12	5,004,600	3,406
蒲郡	8.13	5,057,200	12,108



全景

▲昭和56年7月撮影

▼スタンド

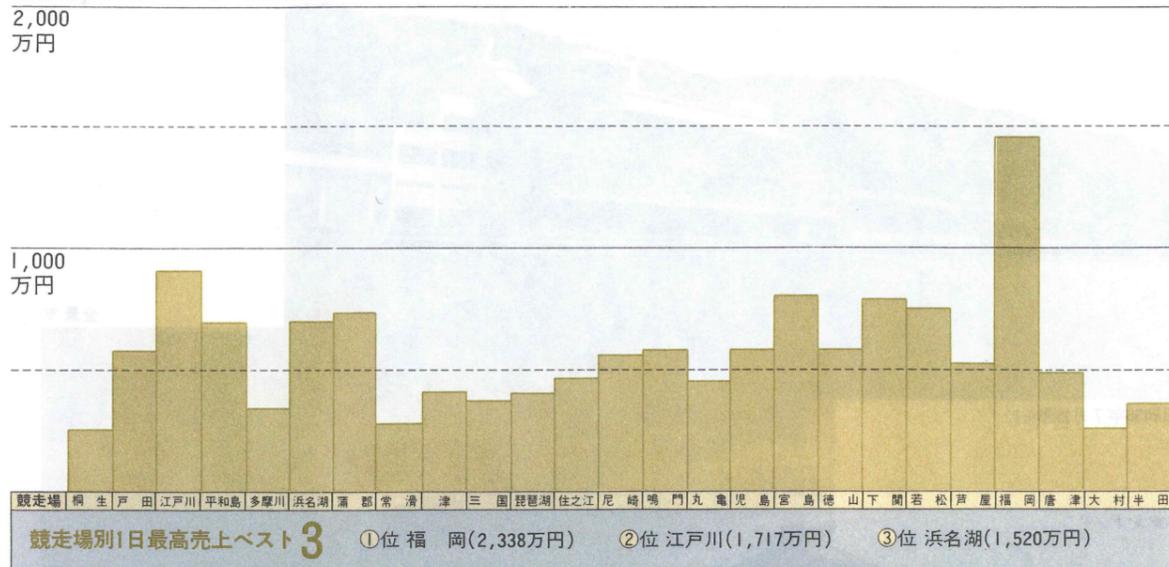


▼全国地区対抗競走



▲ピット

■競走場別一日平均売上



■公営競技別売上額一覧表

単位=百円

競技名	31年度	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	20,514,436,3	20.0	5,856,2	11.5
競輪	66,664,920,0	16.4	16,303,5	15.4
中央競馬	13,839,565,7	24.7	64,670,9	14.8
地方競馬	20,511,579,9	18.5	9,218,7	21.5
オートレース	3,831,894,7	84.8	7,820,1	28.3

世相トピックス

- 政治・経済 日本国連に加盟 日ソ国交回復 神武景気 佐久間ダム完成
- 一般・社会 “いこい”50円で発売 日本登山隊マナスルに初登頂 東海道本線の全線電化完成
- 流行語 太陽族 一億総白痴化 書きますわよ
- 流行歌 若いお巡りさん ここに幸あり 哀愁列車
- その他 太陽族横行 慎太郎列り流行

●住之江競走場誕生

昭和30年度から景気回復が進み、31年には世にいう神武景気となる。モーターボート競走の売上も31年に入り、ようやく上昇に転じ、対前年度比11.5%増となった。

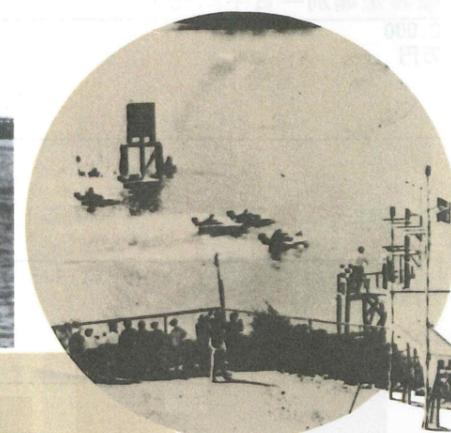
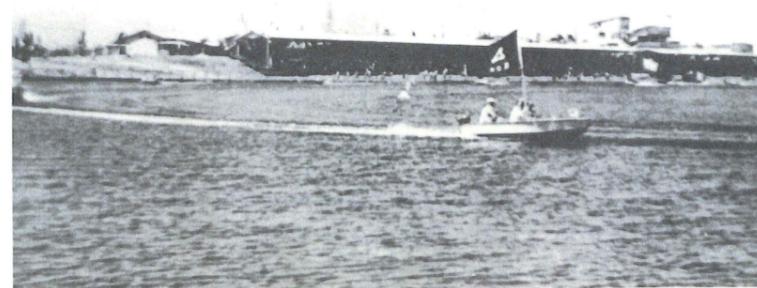
しかしながら、今やモーターボート競走を代表するともいべき住之江競走場の前身である狭山競走場は、売上が振わず、しかも30年には早魃のため池の水がなくなり2ヵ月間に亘って開催不能となり、施設会社は1億円の累積赤字をかかえていた。

苦境打開策として、現競走場への移転がはかられ、31年6月19日、現在の住之江競走場が誕生した。初開催初日売上508万円、節間平均520万円は全国平均をやや下回る額ではあったが、狭山時代を65%も上回る売上であった。

昭和31年度初開催及び移転初日売上 (単位:円)

競走場	初開催月日	売上	入場
桐生	11.8	2,106,000	5,090
住之江	6.19	5,080,500	6,469

▼スタンド(住之江)



▲日付板



▲入場門

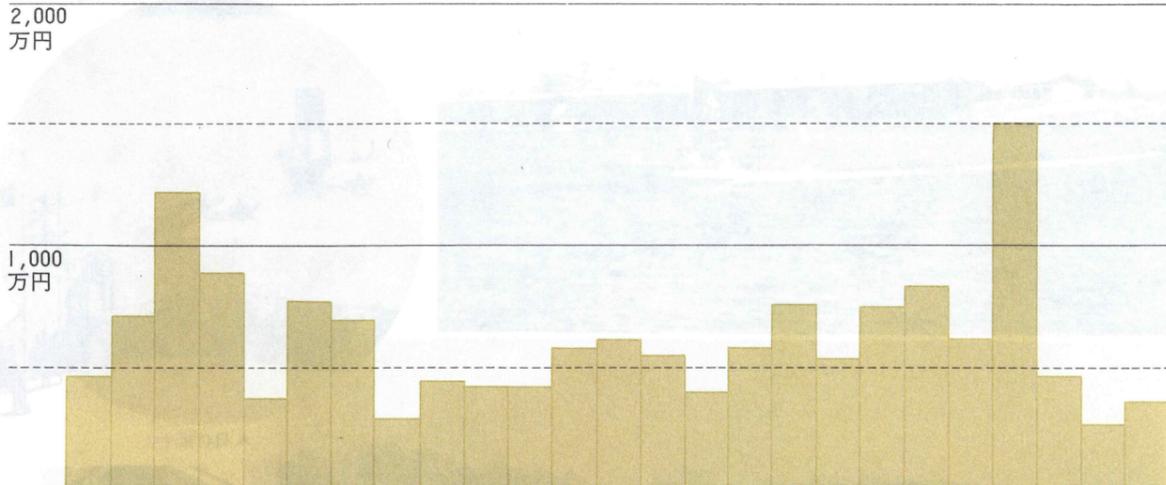


▲投票所



▲競技部、第2副審

■競走場別一日平均売上



競走場別1日最高売上ベスト3 ①位 福岡(2,091万円) ②位 江戸川(2,063万円) ③位 浜名湖(1,725万円)

■公営競技別売上額一覧表

単位=百円

競技名	32年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	22,554,969.8	9.9	6,222.1	6.2
競輪	73,602,022.7	10.4	18,048.6	10.7
中央競馬	16,397,446.4	18.5	79,214.7	22.5
地方競馬	23,297,475.8	13.6	10,662.5	15.7
オートレース	5,627,551.8	46.8	10,194.8	30.4

世相トピックス

- 政治・経済 石橋首相病氣退陣、岸内閣成立
- 日本、国連で安全保障理事会非常任理事国に当選
- 一般・社会 五千円札、百円硬貨登場
- ソ連、人工衛星スプートニク1号打上げ成功
- 流行語 なんと申しましょうか よろめき
- 流行歌 東京のバスガール パナナ・ボート
- その他 カリアソ旋風

●琵琶湖で第3回MB記念を開催

国民に馴染みのないモーターボート競走を成功させるためには、競技自体に興味を持ってもらうことと、競走が公正に行なわれているという信頼感を得ることがなによりも大切であった。

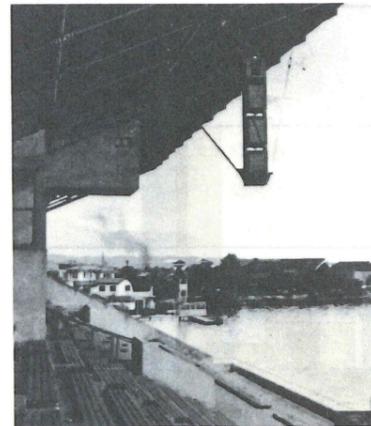
モーターボート競走の歴史の中で最大の不祥事である高野山事件がこの年公表されたため、関係者は信用の回復に懸命であった。この関係者の懸命な姿勢がファンには評価されてか売上面には大きな影響は表れなかった。

大村、津に次ぎ3番目に初開催を行った琵琶湖競走場でこの年第3回MB記念競走が開催され、7月27日の初日460万、2日目660万、3日目560万、4日目540万、最終日には740万円と一般競走を大きく上回る成果をおさめた。

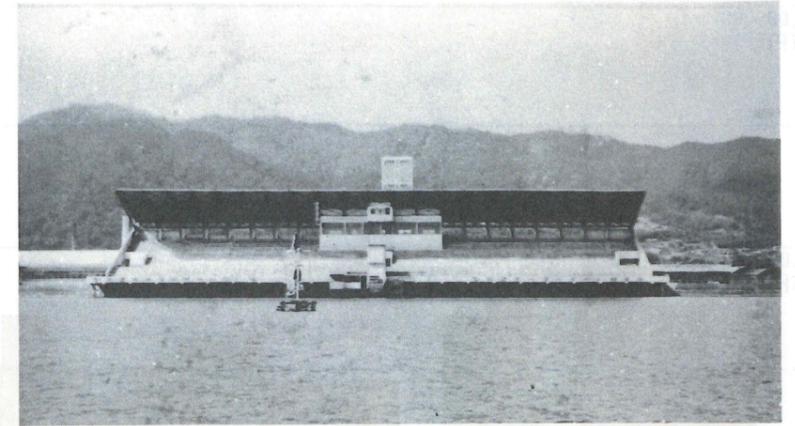
競走の覇者は登録第976号貴田宏一選手であった。

ちなみに、琵琶湖競走場の昭和32年度の日平均売上は431万1,000円である。

▼着順確定標示ランプ



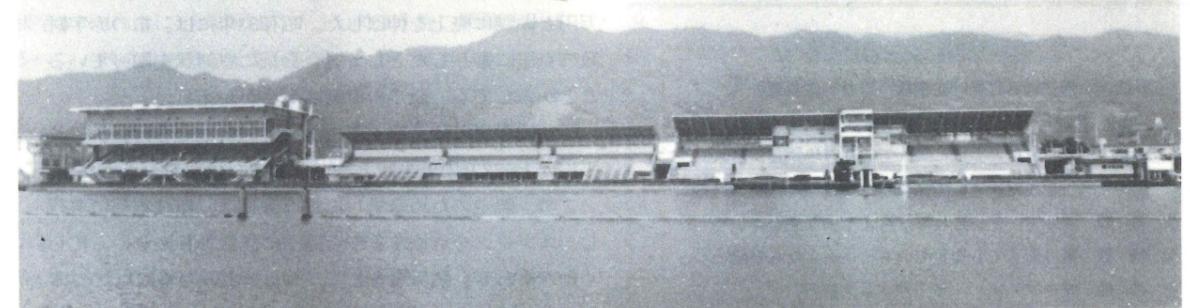
▼スタンド (中央は執行本部)



場内▼

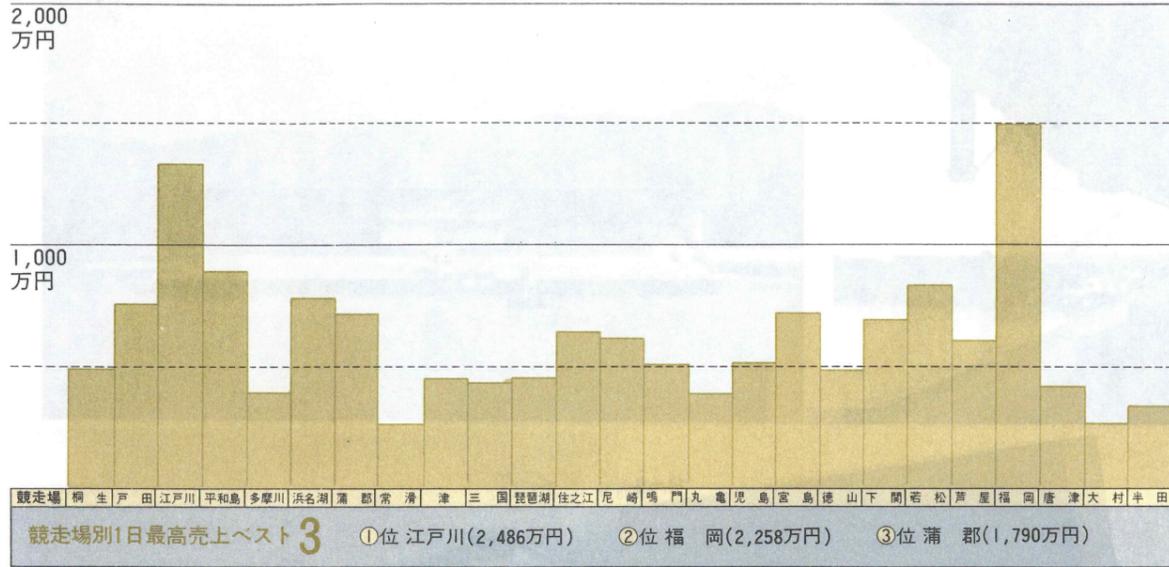


▲競技部・ピット (第1マーク側)



▲昭和56年7月撮影

■競走場別一日平均売上



■公営競技別売上額一覧表

△減 単位=百円

競技名	33年度売上	対前 年比	一日平均売上	対前 年比
モーターボート	22,578,366,5	0.1	6,172,3	△0.8
競輪	76,161,430,8	3.5	18,445,5	2.2
中央競馬	18,977,003,7	15.7	89,514,2	13.0
地方競馬	23,743,198,7	1.9	10,966,8	2.9
オートレース	5,763,807,2	2.4	11,390,0	11.7

世相トピックス

- 政治・経済 最後のBC級戦犯釈放 なべ底景気
日中間貿易協定の調印
- 一般・社会 東京タワー完成 一万円札登場 ビジネス
特急こだま運転開始(東京～大阪6時間50分)
- 流行語 イカす シビれる イヤーな感じ
- 流行歌 星はなんでも知っている からたち日記
- その他 フラフープ サックドレス流行

●さすが“生みの親、育ての親”

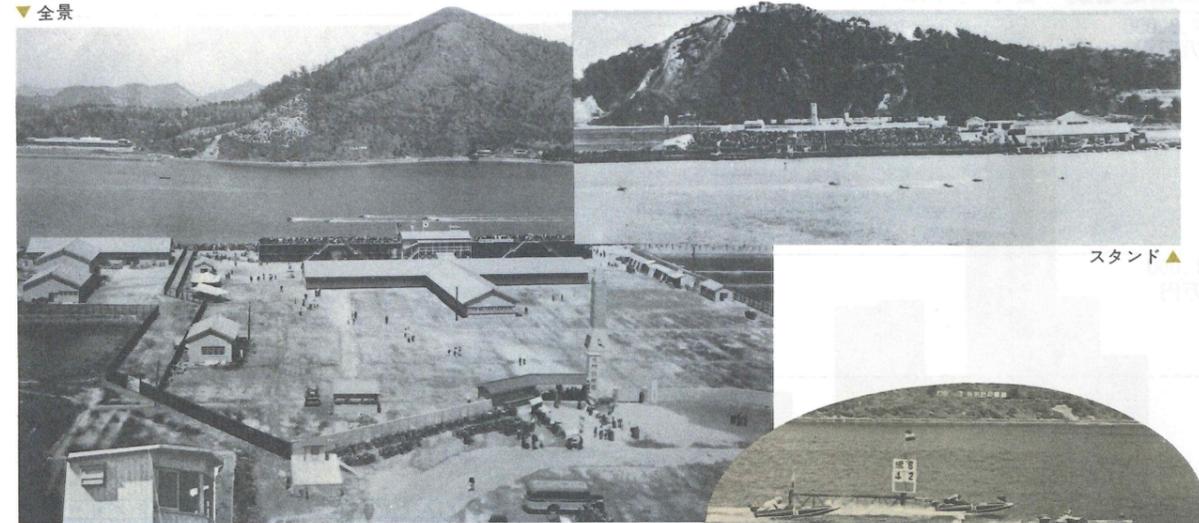
モーターボート競走30年間の売上の傾向が、4つに分類できることは総論編で述べたとおりであるが昭和33年度は、売上が伸び悩んだ草創期最後の年で、34年度から売上は急激に伸び始める時代の境目の年である。

鳴門競走場は、昭和28年度に初開催を行い、その年の1日平均売上470万円と好調なスタートをきり、翌29年度は580万円と順調に売上を伸ばした。昭和31年には、市の赤字財政の克服に寄与したとして連合会長に感謝状を贈っていることからしても、競走の貢献度がうかがえる。

昭和33年度には、第4回全国地区対抗競走を行い、1日平均売上682万円と当時としては大変な成功をおさめた。

この、競走のため来場した笹川会長は、競技本部に直行し、エンジンを点検するやら選手に注意を与えるやら忙しく動きまわり、関係者をして「やはり生みの親はただの偉い人とは違う」と感心せしめたという。

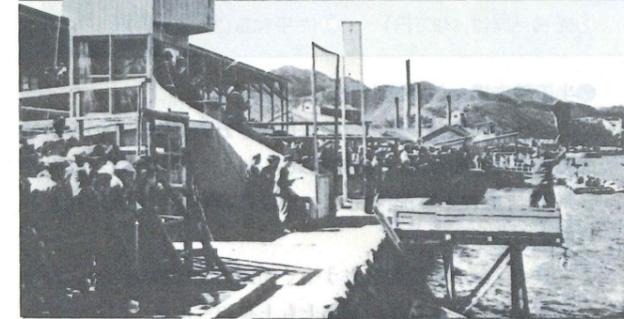
▼全景



▲スタンド



▲日付板

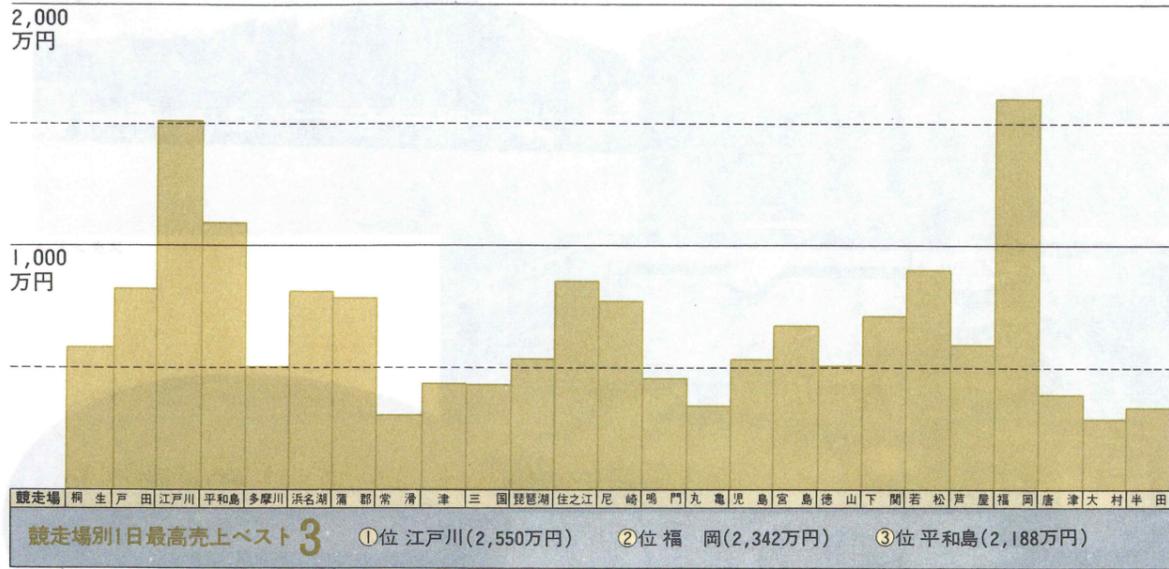


▲主審



昭和56年7月撮影▶

■競走場別一日平均売上



■公営競技別売上額一覧表

単位=百円

競技名	34年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	24,466,162.8	8.4	6,882.2	11.5
競輪	79,128,779.2	3.9	19,620.3	6.4
中央競馬	22,841,945.7	20.4	108,255.7	20.9
地方競馬	26,062,782.6	9.8	12,633.4	15.2
オートレース	6,529,457.0	13.2	12,820.0	12.6

世相トピックス

- 政治・経済 社会党訪中団「アメリカ帝国主義は日中両国民共同の敵」 岩戸景気
- 一般・社会 皇太子殿下御成婚 個人タクシー登場 伊勢湾台風 児島明子ミスユニバース1位
- 流行語 私の選んだ人を見て下さい
- 流行歌 黒い花びら 東京ナイトクラブ
- その他 カミナリ族横行 テレビ「スター千一夜」

●半田競走場、伊勢湾台風で再起不能

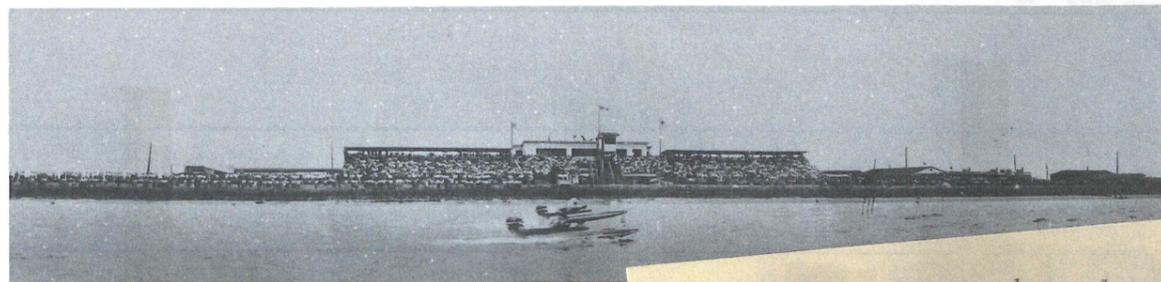
この当時の景気変動はその波長がきわめて短かいのが特徴である。昭和31年は「神武景気」一転して33年は「なべ底景気」と呼ばれる不況、そして34年は「岩戸景気」と呼ばれる好況にわいた。

モーターボート競走もようやく国民の間に馴染み、定着の度を深め、この年から売上も上昇の一途をたどることになるが、この当時としては確たる見込をたてるまでには至らなかった。

伊勢湾台風が愛知県の三競走場に壊滅的な打撃を与えたのはこの年9月26日のことであった。

蒲郡、常滑両競走場ともスタンドは倒れ、水上施設は跡形もなく競走場の機能は完全に失なわれた。

半田競走場はさらにひどい破壊状態で、全くなにもなくなり、わずかに競走会の事務所であった建物だけが残っていたという半田競走場は遂に再起できずそのまま廃止された。



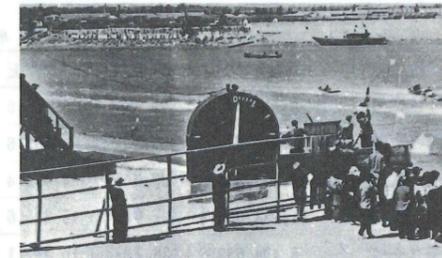
▲全景



▲ピット

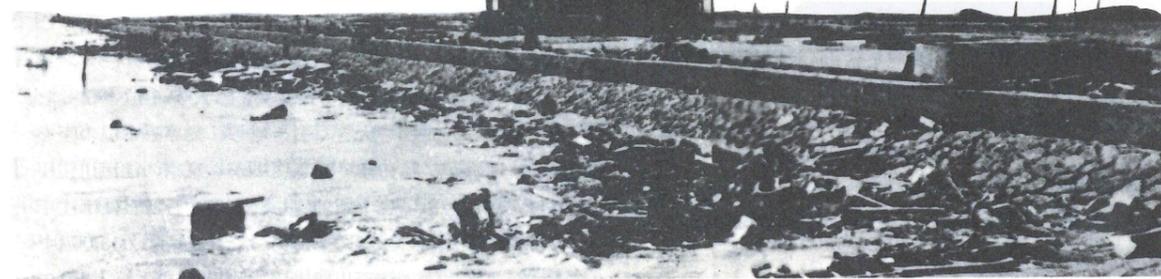


▲第2マーク

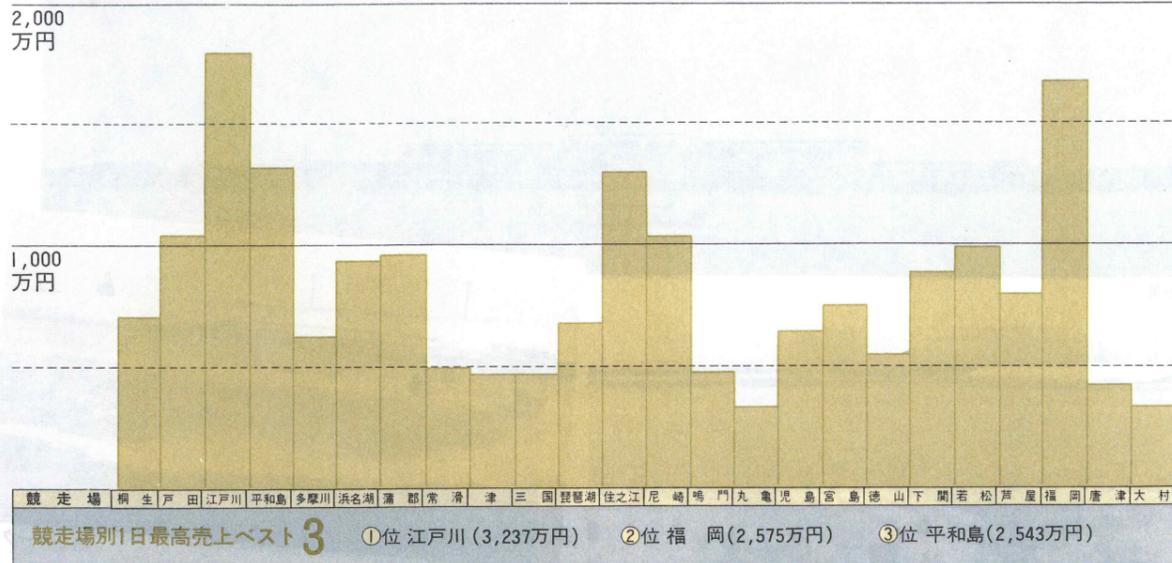


▲大時計

▼伊勢湾台風の惨禍で競走場流失



■競走場別一日平均売上



■公営競技別売上額一覧表

単位=百円

競技名	35年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	29,516,772.6	20.6	8,205.9	19.2
競輪	83,541,260.5	5.6	20,465.8	4.3
中央競馬	29,004,018.8	27.0	134,902.4	24.6
地方競馬	31,764,068.4	21.9	15,616.6	23.6
オートレース	8,404,632.8	28.7	16,577.1	29.3

世相トピックス

- 政治・経済 浅沼社会党委員長刺殺さる 日米安保条約調印 所得倍増計画の発表
- 一般・社会 安保反対闘争で女子東大生死亡 カラーテレビ放送開始 自治省発足
- 流行語 声なき声 低姿勢 リバイバル
- 流行歌 誰よりも君を愛す アカシヤの雨がやむとき
- その他 ダッコちゃんブーム

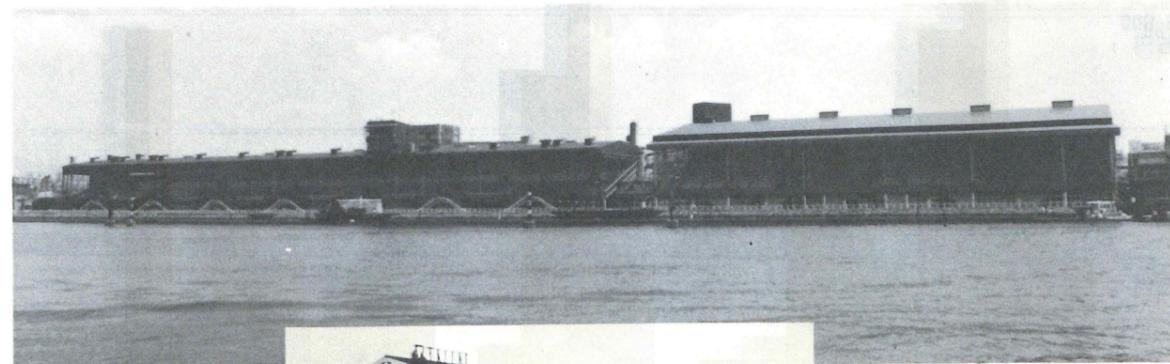
●西の福岡、東の江戸川

35年度に入ると売上増加傾向は、はっきりとその徴候を現わし、これまでも売上が順調に伸び始めたかと思われる時期はあったが、いずれも短期間ですぐに反動が出て再び低下傾向をきたすという循環を繰り返して来た。

しかし、今度の売上増加は従来のパターンとは異なり、上昇の一途をたどってこの年遂に一日平均売上伸び率19.2%を達成、一日平均売上は820万円に達した。

競走場別の一日平均売上では、昭和27年度は720万円で若松競走場であったが、翌28年9月福岡競走場がオープンすると、その年1日平均1,110万円を売上げ、第1位となった。

その後、各競走場を大きく引き離し、業界第1位の座を確保し続けたが、昭和32・33年度頃から東京の江戸川、平和島競走場が急激に売上を伸ばし、36年2月22日には江戸川競走場が関係者の永年の夢であった1日売上3,000万円を達成、35年度は遂に江戸川競走場が業界第1位となった。



▲昭和56年7月撮影

▼第2副審



▲競技部、ピット

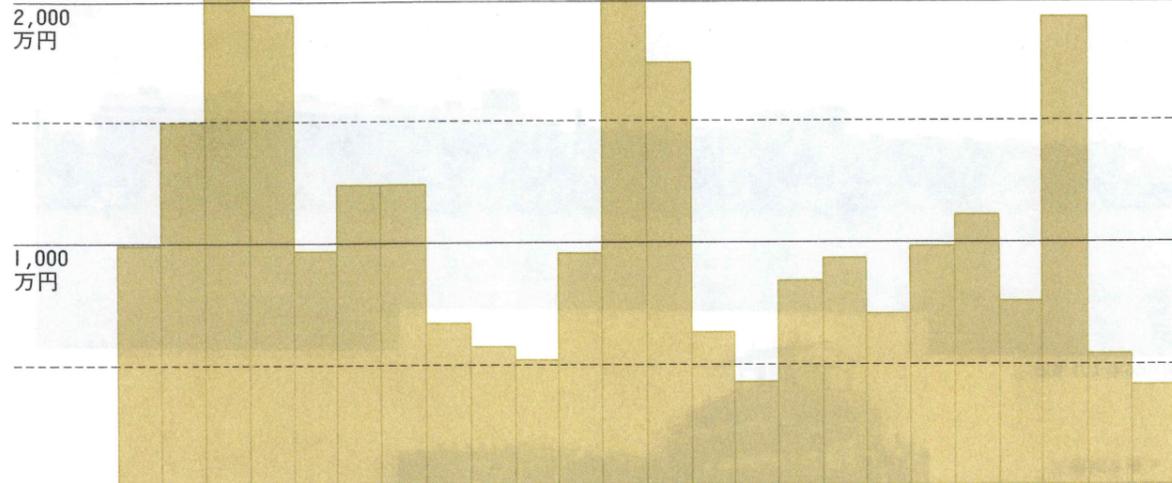


▲主審



▲全景

■競走場別一日平均売上



競走場別一日最高売上ベスト3 ①位 住之江(5,654万円) ②位 平和島(4,262万円) ③位 江戸川(3,901万円)

■公営競技別売上額一覧表

単位=百円

競技名	36年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	39,936,575.1	35.3	11,078.1	35.0
競輪	101,077,708.8	21.0	26,172.4	27.9
中央競馬	37,315,982.6	28.7	173,562.7	28.7
地方競馬	43,591,755.8	37.2	21,452.6	37.4
オートレース	11,342,041.9	34.9	22,415.1	35.2

世相トピックス

- 政治・経済 ケネディ大統領就任 東京株式市場大暴落
キューバ危機 長沼答申が出される
- 一般・社会 日紡貝塚バレーチーム「東洋の魔女」と異名をとる
柏嶋時代始まる
- 流行語 わかっちゃいるけどやめられない
- 流行歌 スーグラ節 上を向いて歩こう
- その他 シームレス stockings 流行

●江戸川連続日本一

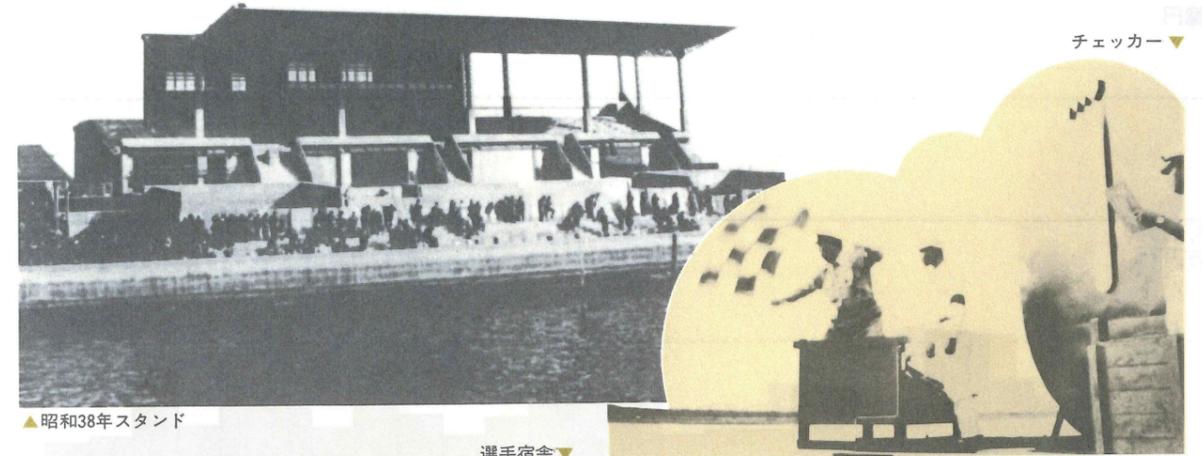
昭和36年度の日平均売上は1,107万円、対前年比35.0%増と大幅な伸びとなった。

地域的には、関西の住之江、尼崎が急激な伸びを示しており、住之江は前年度の1,299万円から75.7%増の2,283万円に、尼崎は1,030万円から67.9%増の1,729万円にと飛躍的な伸びとなった。

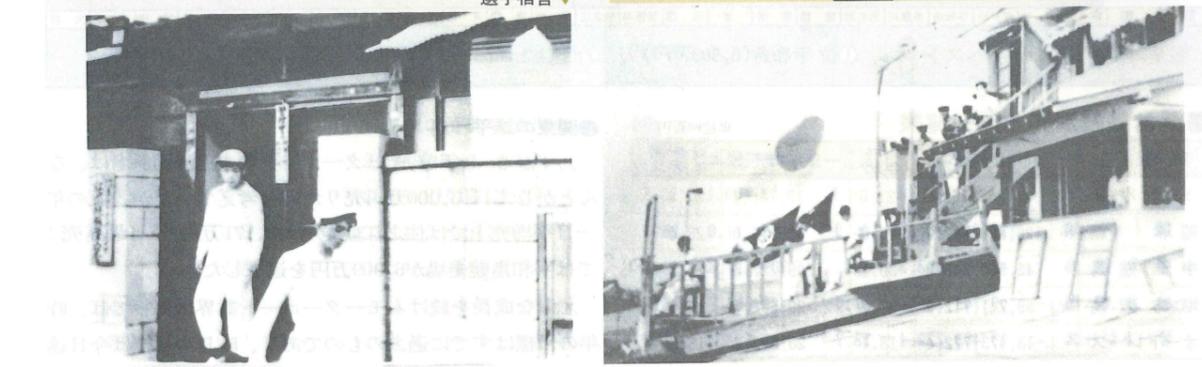
10%台の伸び率にとどまったのは三国、下関、若松、芦屋福岡の5競走場のみでその他は30%から40%の高い伸び率となった。

北九州周辺の売上伸び率が低いのは、石炭産業の斜陽化による地域的な経済の落ち込みが原因となったためである。

住之江、尼崎の驚異的な売上増加にもかかわらず江戸川競走場も対前年比27.5%売上増の2,290万円、2,283万円の住之江競走場をかわし連続日本一となった。



▲昭和38年スタンド



選手宿舎



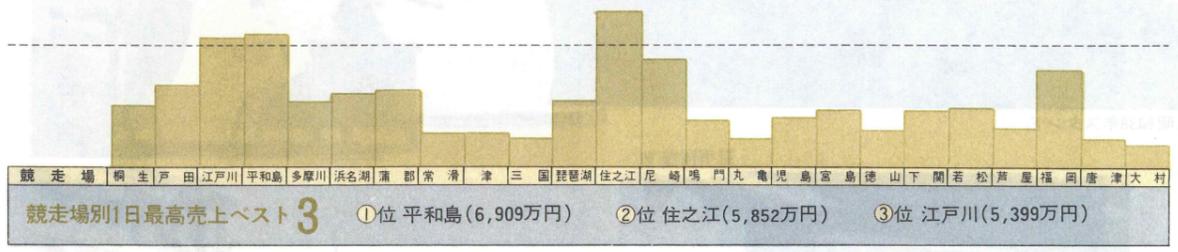
▲主審

▲昭和56年7月撮影

■競走場別一日平均売上

1億円

5,000万円



■公営競技別売上額一覧表

単位=百万円

競技名	37年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	48,269,702.5	21.0	13,709.1	23.8
競輪	126,329,839.7	25.0	32,711.0	25.0
中央競馬	48,540,843.3	30.1	209,227.8	20.5
地方競馬	59,741,712.2	37.0	29,099.7	35.0
オートレース	13,473,772.4	18.7	26,523.2	18.3

世相トピックス

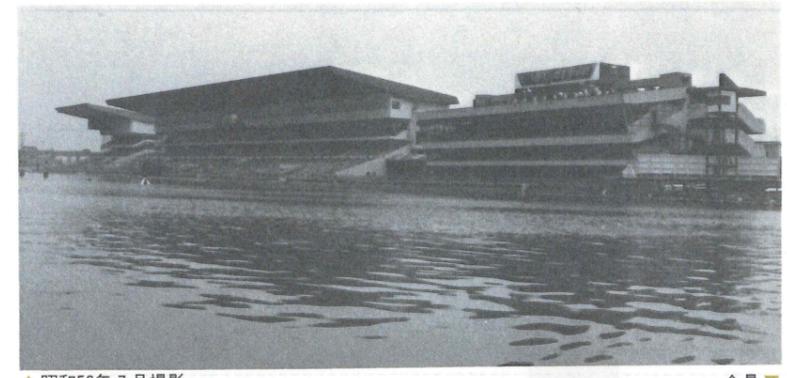
- 政治・経済 憲法調査会で改憲反対論が大勢を占めた
北陸トンネル、若戸大橋開通
- 一般・社会 国産旅客機YS11完成 三河島事件
国産1号炉に「原子の火」ともる
- 流行語 無責任時代 産業スパイ 青田刈り
- 流行歌 いつでも夢を 王将 可愛いいペビー
- その他 ツイスト流行 テレビ「ベン・ケーシー」

●関東の雄平和島

わずか2・3年前、モーターボート競走業界関係者は、なんとかして1日3,000万円売りたいと考えていたが、この年一日平均売上では住之江競走場が3,171万円、一日最高売上では平和島競走場が6,909万円を達成した。

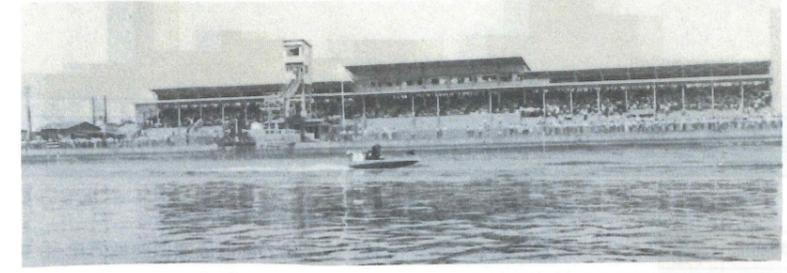
急激な成長を続けるモーターボート業界にあっては、昨年の目標はすでに過去のものであり、昨日の目標は今日達成されるという状態であった。その中において関係者は決して油断をせず競走法の改正を契機に施設改善に取り組み、各地で施設改善の槌音の絶える日はなかった。

平和島競走場は、優れた立地条件にもかかわらず江戸川競走場の後塵を拝して来たが、この年1日平均2,702万円を売上げ、江戸川競走場をわずかにおさえて関東一の売上を記録すると共に、3月31日には6,909万円の全国記録を達成し文字どおり関東の雄となった。なお、この年11月から戸田競走場は東京オリンピックのため休催に入った。



▲昭和56年7月撮影

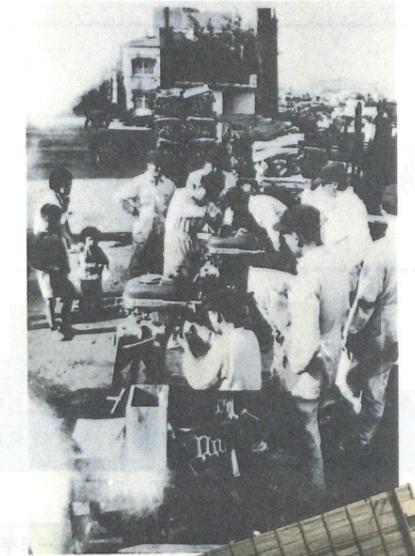
▼全景



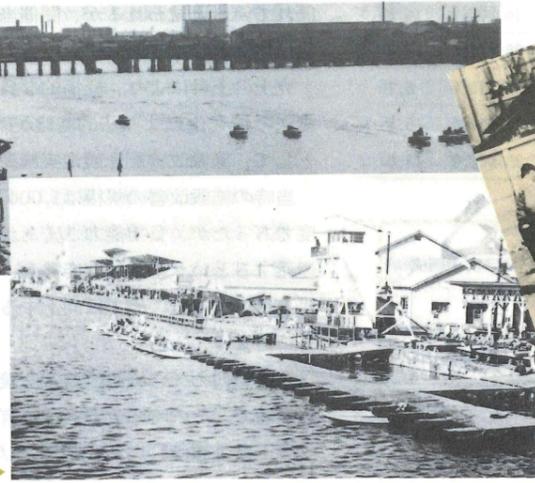
▲大時計

競技部、ビット▶

▼整備



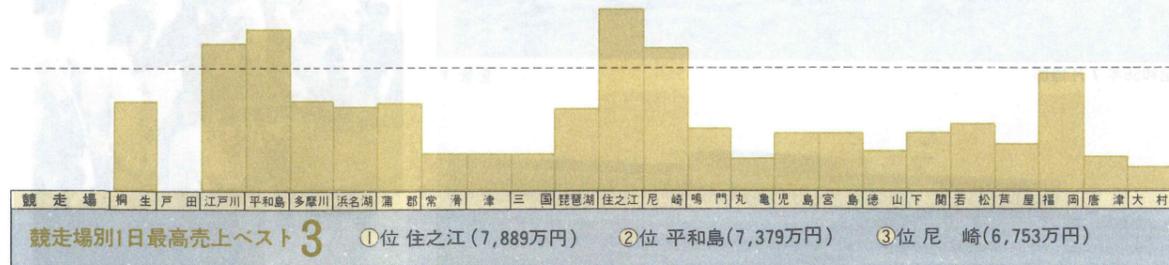
▲用員訓練



■競走場別一日平均売上

億円

5,000 万円



■公営競技別売上額一覧表

単位=百円

競技名	38年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	54,791,360.6	13.5	16,006.8	16.8
競輪	148,178,440.6	17.3	38,418.1	17.4
中央競馬	53,513,566.2	10.2	222,048.0	6.1
地方競馬	71,281,835.1	10.7	35,964.6	15.8
オートレース	15,220,300.9	13.0	29,961.2	13.0

世相トピックス

- 政治・経済 ケネディ大統領暗殺（日米間テレビ宇宙中継成功） スーパーマーケット出現
- 一般・社会 伊藤博文の1000円札登場
「吉展ちゃん」誘拐事件 三ちゃん農業
- 流行語 ちーとも知らなかった そのようよ
- 流行歌 こんにちわ赤ちゃん 高校三年生
- その他 マイカーブーム 映画「クレオパトラ」

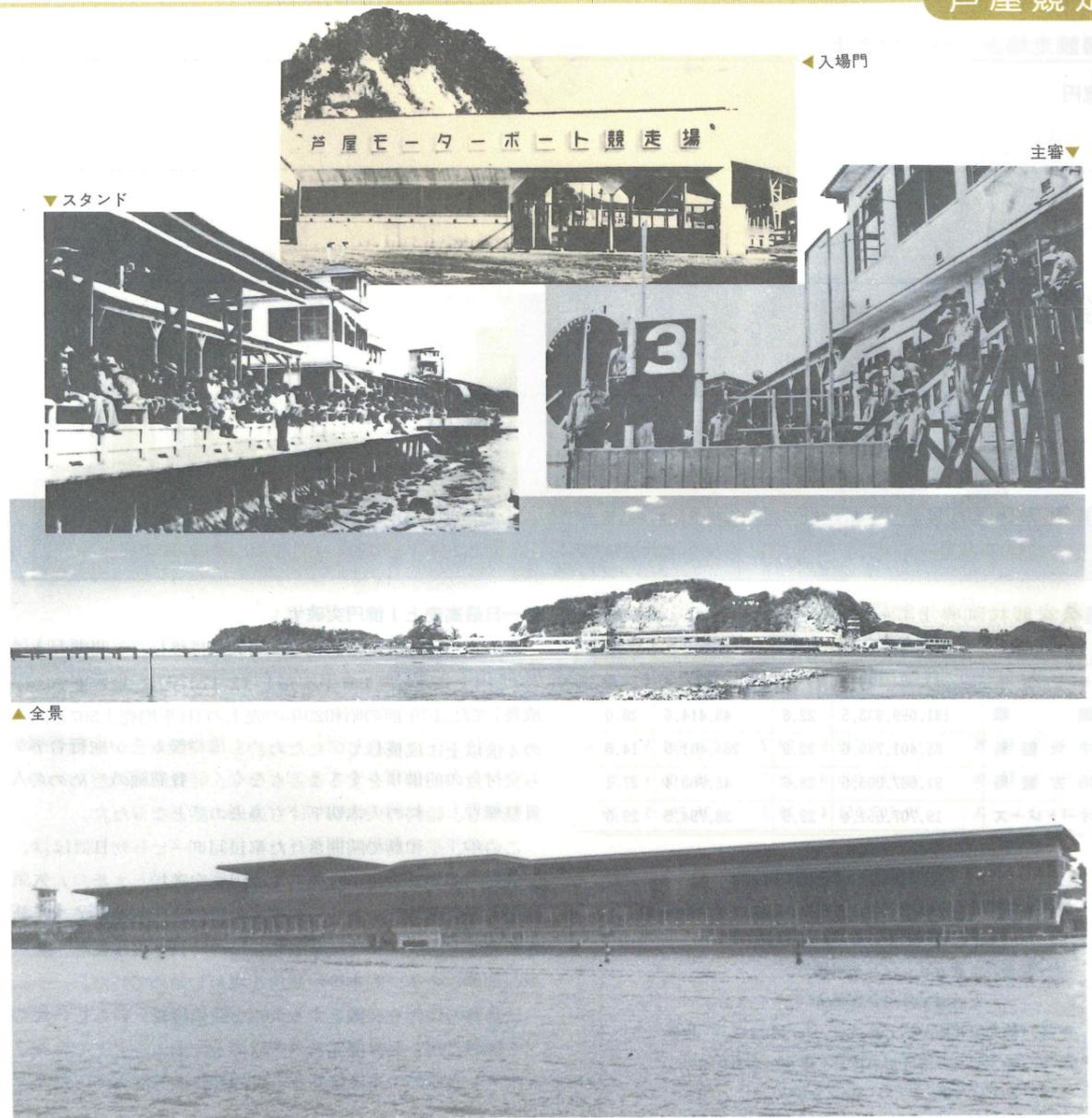
●芦屋競走場で全国初の施設改善記念競走

今でこそモーターボート競走場の施設は類似競技に比べ優れていると言われるが、開催当初からこの当時までの施設は他に著しく立遅れていた。

売上の上昇により、経済的な負担能力ができ、併せて競走法の恒久化により法的基盤が確立すると施設改善奨励策として、施設改善記念競走実施要領が制定された。

当時の施設改善の規模は1,000万円からせいぜい1億円程度であったが、負担能力さえあればファンのための施設に還元するという基本的な姿勢と、施設を改善すれば必ず入場人員が増加し、売上は向上するという方程式が定着したといえよう。

全国で初めての施設改善記念競走が実施されたのは芦屋競走場で、その時の改善内容は有料観覧席と立席上屋の新設で工事金額は1,132万円であった。

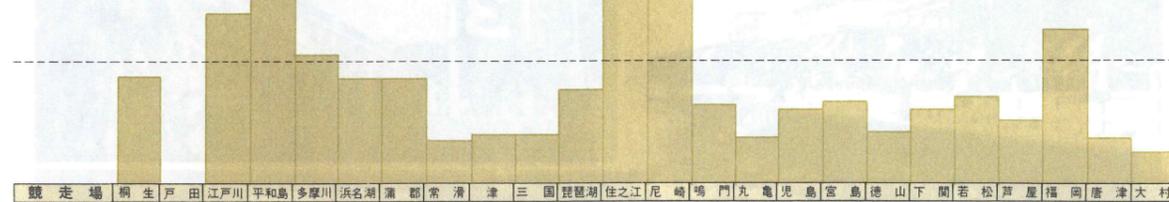


昭和56年7月撮影 ▲

■競走場別一日平均売上

1億円

5,000万円



競走場別1日最高売上ベスト3 ①位 平和島(1億0,278万円) ②位 住之江(9,478万円) ③位 尼崎(8,085万円)

■公営競技別売上額一覧表

単位=百万円

競技名	39年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	73,094,914.6	33.4	21,107.4	31.9
競輪	181,699,933.5	22.6	48,414.6	26.0
中央競馬	65,401,749.6	22.2	254,481.5	14.6
地方競馬	91,687,005.0	28.6	45,706.4	27.1
オートレース	19,707,651.4	29.5	38,794.5	29.5

世相トピックス

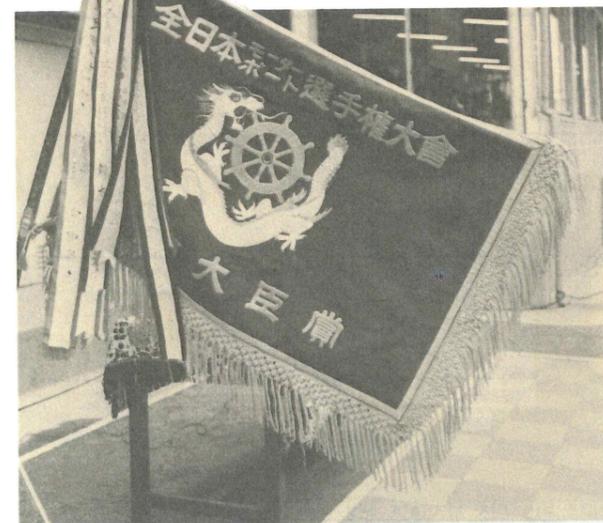
- 政治・経済 公明党結成 OECD (経済協力開発機構) に加盟 IMF 8 条国に移行
- 一般・社会 東京オリンピック開催 東海道新幹線営業開始
- 流行語 おれについてこい ウルトラC 根性
- 流行歌 アンコ椿は恋の花 幸せなら手を叩こう
- その他 映画「マイ・フェア・レディ」

●一日最高売上1億円突破す

モーターボート競走の売上は順調に推移し、年間売上は730億円を突破し、1日平均売上は2,110万円を越えるまでに成長した。10年前の昭和29年の売上の1日平均売上507万円の4倍以上に成長していたため、もはや競走会が施行者から交付金の前借りをする必要もなく、経費節減のための人員整理も、給料の大幅切下げも過去の話となった。

この年、平和島で開催された第11回ダービー初日には、関係者の夢であった1日売上1億円を突破し、また、人気選手の育成面では、長い三津川、倉田の時代を越えて、新鋭の北原友次がダービーを制し、後の時代を担う長瀬、彦坂、加藤、金子、岡本等が頭角を現わし始めていた。

法基盤の強化を契機とする大幅な設備投資、新しいスター群の台頭、業界関係者の意欲の上げ潮ムード、モーターボート競走の未来は限りない可能性に満ち満ちていた。



▲運輸大臣旗



▲内閣総理大臣杯



▲三津川要選手



▲倉田栄一選手



▲北原友次選手



▲加藤峻二選手

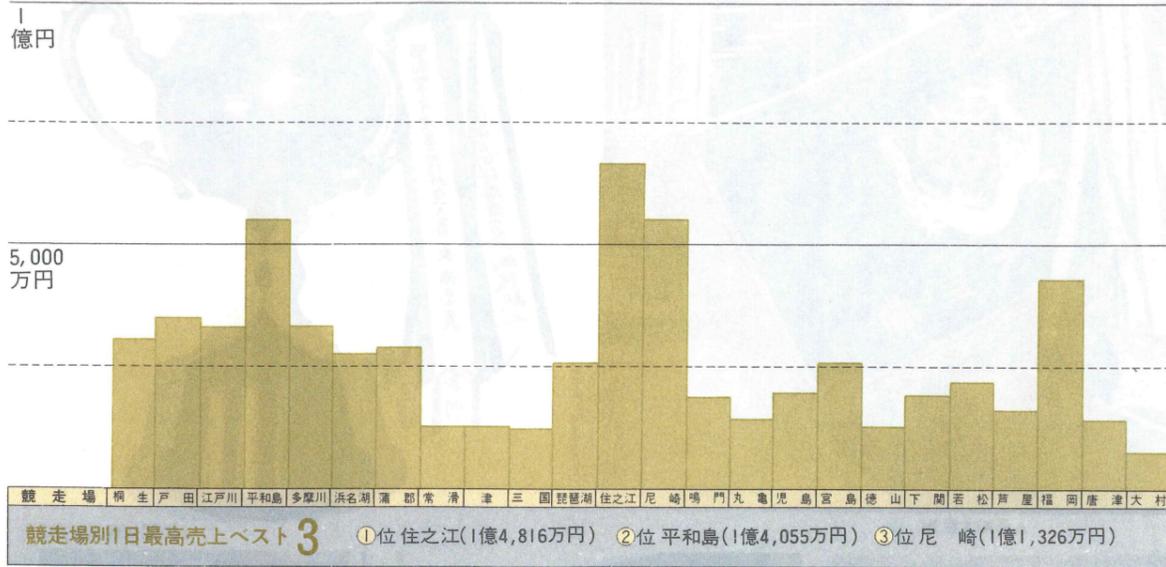


▲岡本義則選手



▲彦坂郁夫選手

競走場別一日平均売上



公営競技別売上額一覧表

単位=百万

競技名	40年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	98,333,216.3	34.5	27,629.5	30.9
競輪	212,482,439.5	16.9	56,752.8	17.2
中央競馬	86,650,971.0	32.5	318,569.7	25.2
地方競馬	109,285,837.6	19.2	51,574.3	12.8
オートレース	24,768,234.1	25.7	40,143.0	3.5

世相トピックス

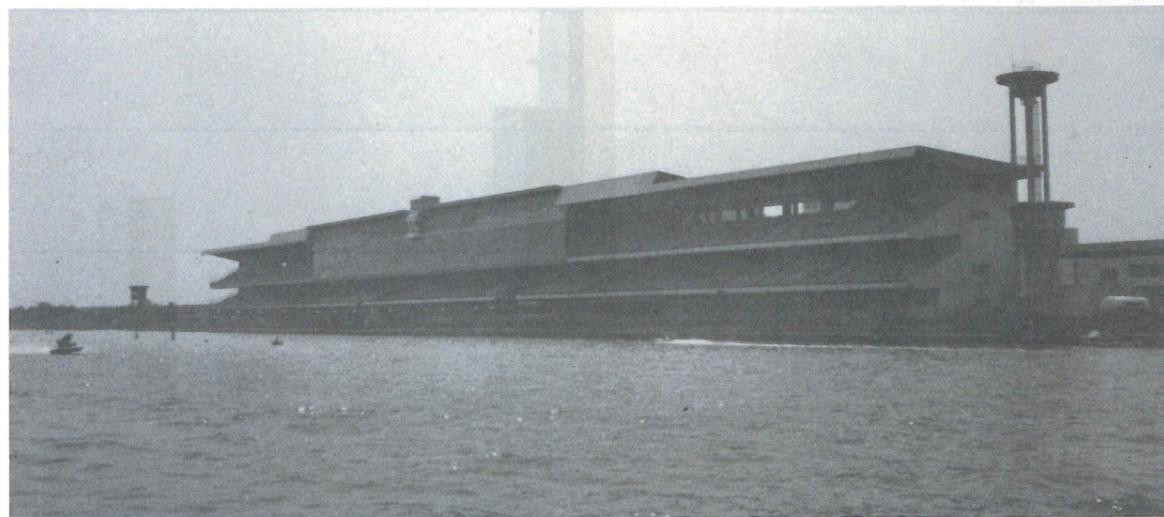
- 政治・経済 国内経済は不況となり、大型倒産が続出し、政府は戦後初の国債を発行した
- 一般・社会 名神高速道路開通 朝永振一郎博士がノーベル物理学賞受賞
- 流行語 しごき まじめ人間 やったるで
- 流行歌 柔 まつの木小唄 涙くんさようなら
- その他 バンティストッキング流行 歴史ものブーム

戸田競走場3年ぶりに再開

モーターボート競走業界が順風満帆の状態にある中で唯一の心配事は東京オリンピックのために休催している戸田競走が再開できるかどうかであった。

戸田競走場関係者は日本漕艇協会との数々の問題を熱意と誠意とで解決し、9月からは文字通り昼夜兼行でメインスタンドをはじめ諸施設の工事に着工、10月28日の初日には、収容人員1万名の日本一の施設を完成した。

戸田競走場は再開初日、早くも5,086万円を売上げ、5日間の節間売上は1億9,500万円に達した。この年の戸田競走場の1日平均売上は3,900万円で、関東では平和島の5,570万円に次ぐ第2位の成績であったが、戸田競走場関係者はこれに満足することなく「東の戸田、西の住之江」を合言葉に日本一を目指していた。この年、日本経済は停滞気味であったが、モーターボート競走の売上は対前年比34.5%増と好調で売上合計は983億円と、1000億にせまっていた。

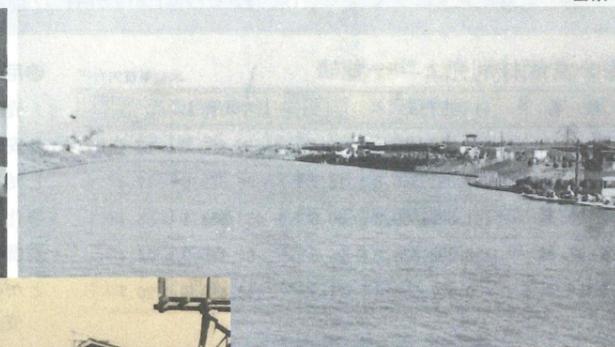


▲昭和56年7月撮影

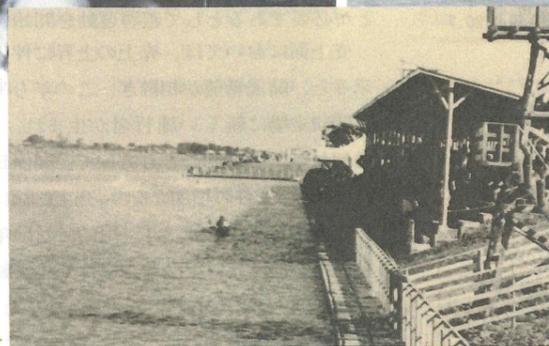
▼全景



▲開場式

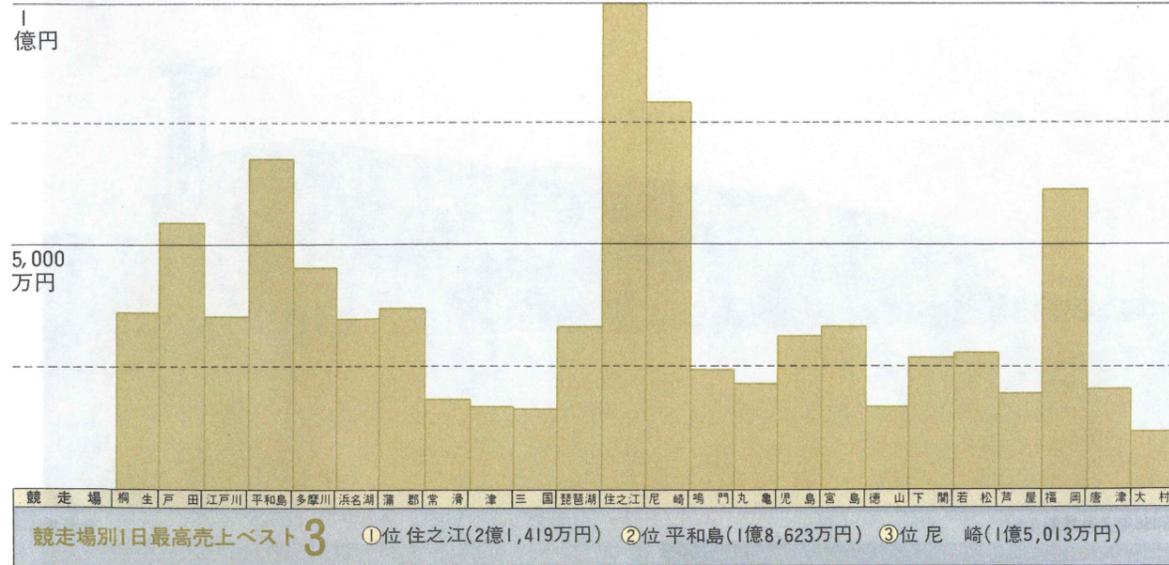


▼待機所



▶スタンド

■競走場別一日平均売上



■公営競技別売上額一覧表

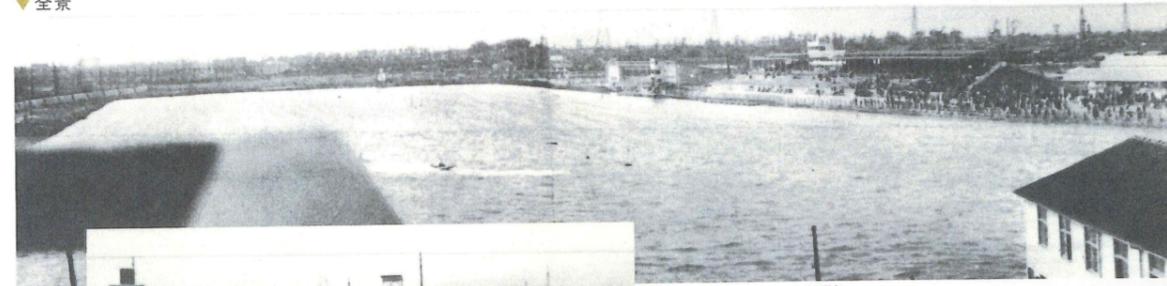
単位=百万円

競技名	41年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	138,597,271.6	40.9	37,347.7	35.2
競輪	247,891,340.8	16.7	66,619.5	17.4
中央競馬	121,827,869.3	40.6	433,551.1	36.1
地方競馬	138,208,874.2	26.5	64,015.2	24.1
オートレース	30,077,366.6	21.6	48,433.7	20.7

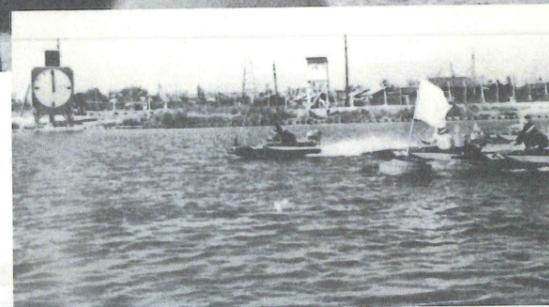
世相トピックス

- 政治・経済 政界の黒い霧事件を機として衆院解散
「敬老の日」「体育の日」制定
- 一般・社会 相次ぐ航空機事故発生 カー・クーラー・カラーテレビの3C時代 早大学園紛争激化
- 流行語 いいじゃない ホクアーしあわせだなあ
- 流行歌 星影のワルツ バラが咲いた 骨まで愛して
- その他 エレキギターブーム

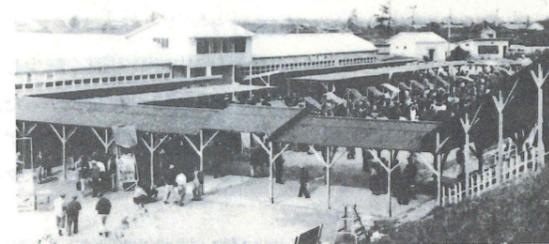
▼全景



◀第1コーナー、大時計



▲競走場予定地



▲場内

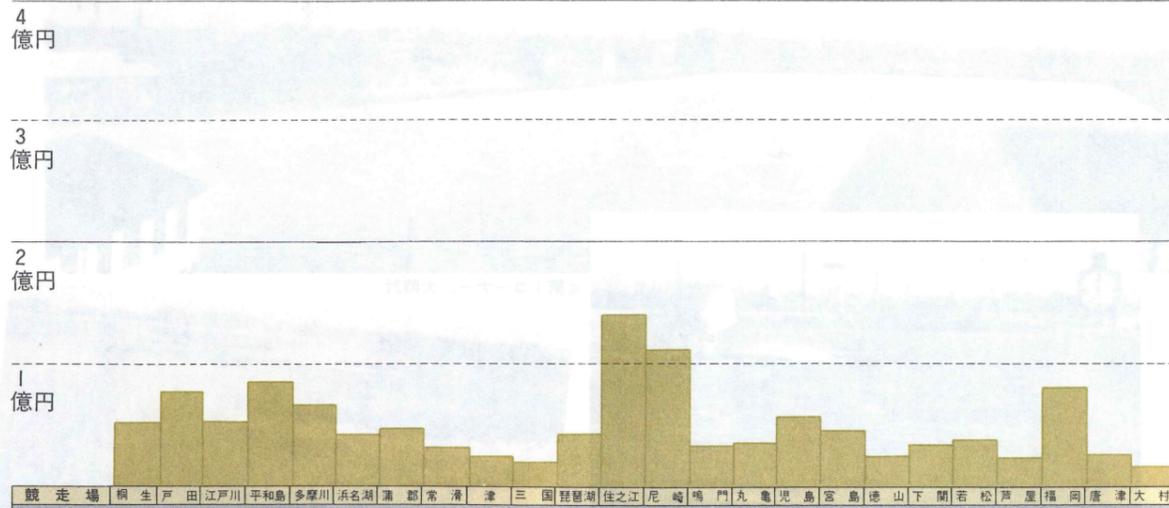


地鎮祭▶



▲昭和56年7月撮影

■競走場別一日平均売上



競走場別1日最高売上ベスト3 ①位 住之江(2億7,108万円) ②位 尼崎(2億6,104万円) ③位 平和島(2億4,765万円)

■公営競技別売上額一覧表

単位=百万円

競技名	42年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	194,601,385.7	40.4	51,427.4	37.7
競輪	307,492,157.5	24.0	84,037.2	26.1
中央競馬	152,754,158.8	25.4	545,550.6	25.8
地方競馬	179,328,553.2	29.8	82,945.7	29.6
オートレース	37,613,962.6	25.0	60,667.6	25.3

世相トピックス

- 政治・経済 東京に美濃部亮吉革新知事誕生 吉田茂元首相死去 「建国記念の日」制定
- 一般・社会 四日市公害訴訟始まる 全国各地にフーテン族、ヒッピーが横行した
- 流行語 カッコいい アングラ ヤマトダマシイね
- 流行歌 世界は2人のために 君こそわが命
- その他 ミニスカート大流行 怪獣ブーム

●浜名湖競走場移転準備完了

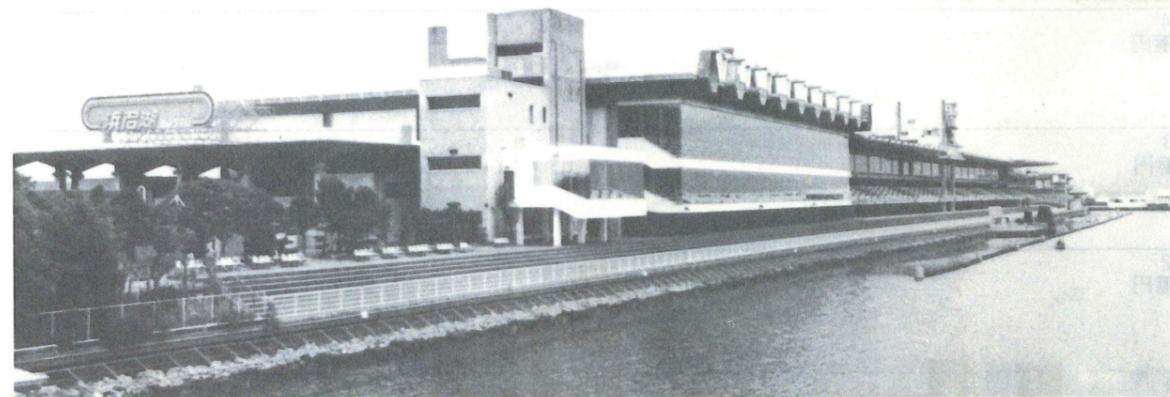
モーターボート競走は公営競技の中で最も遅く誕生し、施行自治体も比較的財政規模の小さい市町村が多かった。そのため、当初は施設に十分な投資をすることができず、土盛りしたスタンドには屋根もないといった状況でスタートした競走場が多かった。

この頃になると、売上上昇に伴い施設改善を行う余裕が生まれ、各地一斉に施設改善に着手した。その費用総額は42年度30億2,000万円にも達した。

しかしながら、立地条件によっては施設を改善することが困難であったり、競走場の登録規格に合致しなくなった競走場もあり、それ等の競走場は移転を余儀なくされた。

古くは狭山競走場が移転しているが、この意味での移転第1号は浜名湖競走場で新年度の43年4月4日から新競走場でレースを開催することになる。

▼昭和56年7月撮影



▼競技部



▼競走場側面



▲全景

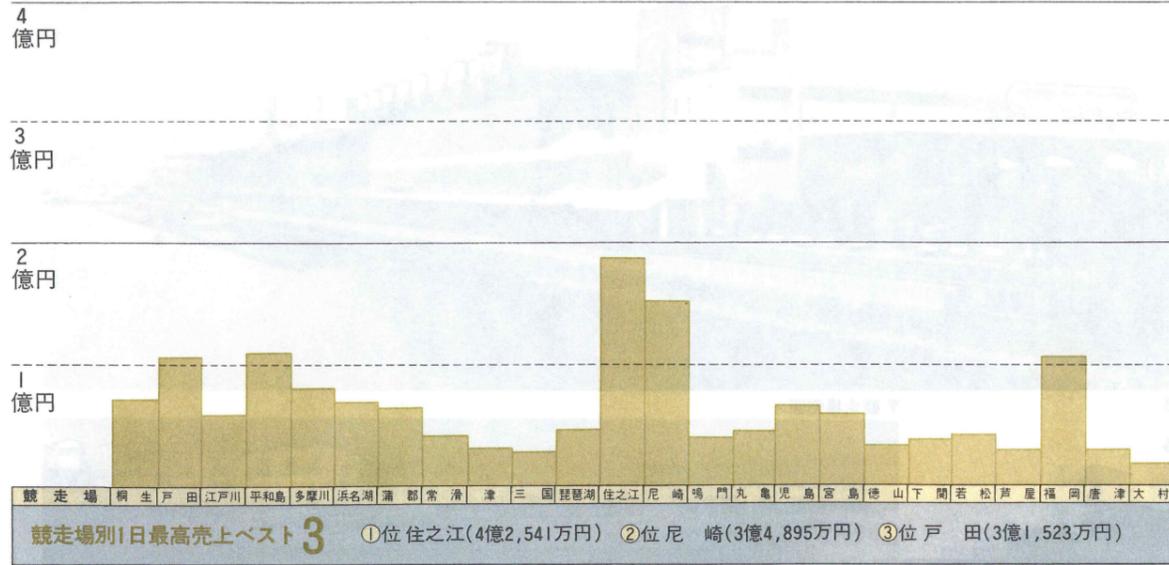


▲浚渫船



▲スタンド

■競走場別一日平均売上



■公営競技別売上額一覧表

単位=百万円

競技名	43年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	257,667,184.5	32.4	68,022.0	32.3
競輪	377,708,023.5	22.8	103,453.3	23.1
中央競馬	242,879,978.3	59.0	849,230.7	55.7
地方競馬	221,249,404.2	23.4	101,630.4	22.5
オートレース	51,404,191.9	36.7	79,820.1	31.2

世相トピックス

- 政治・経済 小笠原諸島日本に復帰、参議院選挙でタレント候補全員当選 明治百年記念式典挙
- 一般・社会 川端康成ノーベル文学賞受賞 3億円強奪事件が東京府中市で発生
- 流行語 昭和元禄 ハレンチ ズッコける
- 流行歌 ブルーライト・ヨコハマ 365歩のマーチ
- その他 競馬ブーム サイケデリック流行

●三国競走場移転を機に大躍進

「世情の悪化は競走場へも影響を与える」の予測は不幸にも的中し、各地競走場で騒擾事件が続発した。

騒擾事件の処理の不手際から初めて児島競走場に対して業界初の開催停止命令が出されたが、新たに施行者に加わる施行者もあったため、開催日数は前年とほぼ同日数の3,788日の開催を確保することができた。

売上は順調で売上伸び率は32.4%で3年連続の40%台の伸び率を確保することはできなかったが、40年度を100とすると262となりわずか3年間で2倍半以上になるという急成長ぶりであった。この年は、浜名湖競走場に次いで三国競走場が移転し、7月9日から新競走場でのレースを開始した。

新競走場で売上は好調で、42年度の1,880万円に比し、43年度2,960万円、44年度4,130万円、45年度5,790万円と加速度的に急成長を続けることになる。

▼入場門



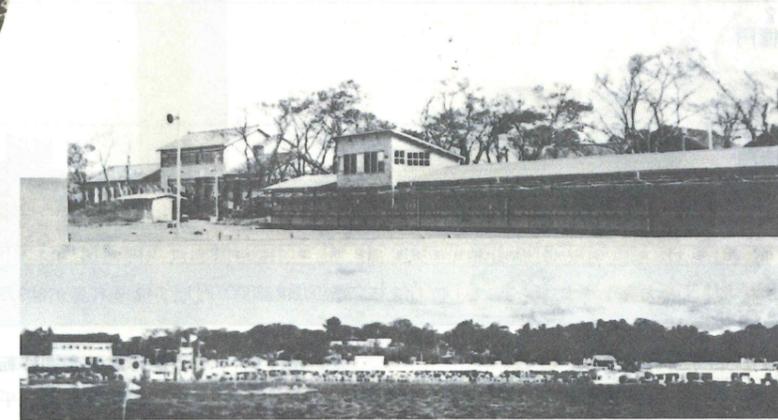
▼九頭竜川でのレース



投票所▼



▲ピット

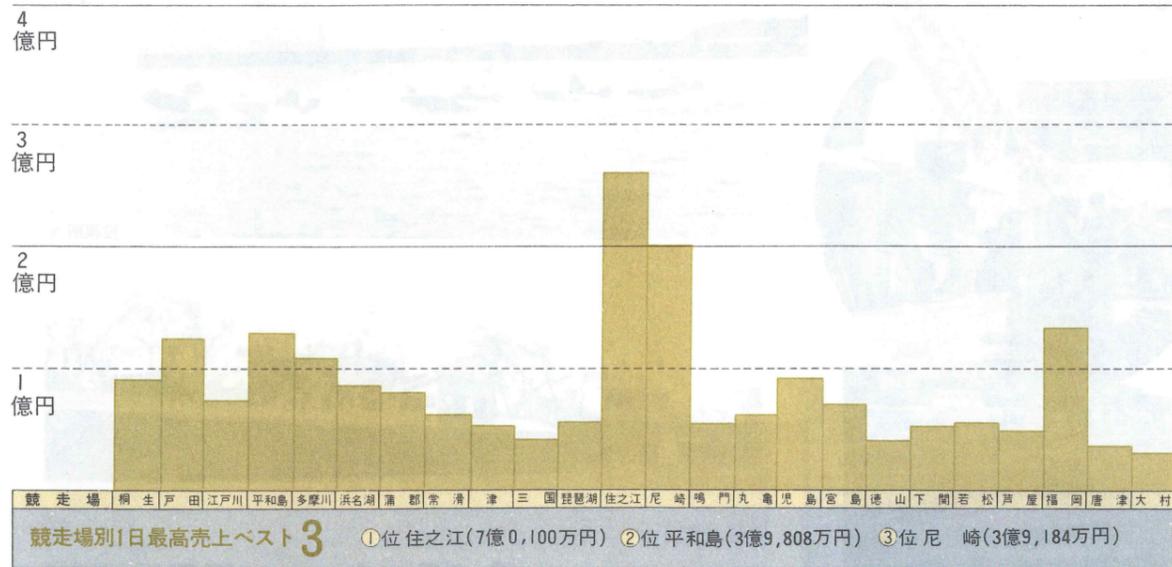


▲全景



▲昭和56年7月撮影

■競走場別一日平均売上



■公営競技別売上額一覧表

単位=百円

競技名	44年度売上	対前 年比	一日平均売上	対前 年比
モーターボート	347,515,331.3	34.9	85,806.3	26.1
競輪	466,676,006.2	23.6	127,716.5	23.4
中央競馬	322,929,843.8	33.0	133,087.2	33.4
地方競馬	279,153,610.6	26.2	127,525.6	25.5
オートレース	60,883,552.6	18.4	100,302.3	25.7

世相トピックス

- 政治・経済 東大安田講堂の封鎖が解除さる 経企庁は日本のGNPは自由世界で第2位と発表
- 一般・社会 アポロ11号月面に着陸、人間初めて月に立つ 東名高速道路全線開通
- 流行語 ニャロメ はっぱふみふみ モーレッツ
- 流行歌 黒猫のタンゴ 長崎は今日も雨だった
- その他 ボウリングブーム テレビ「ゲバゲバ90分」

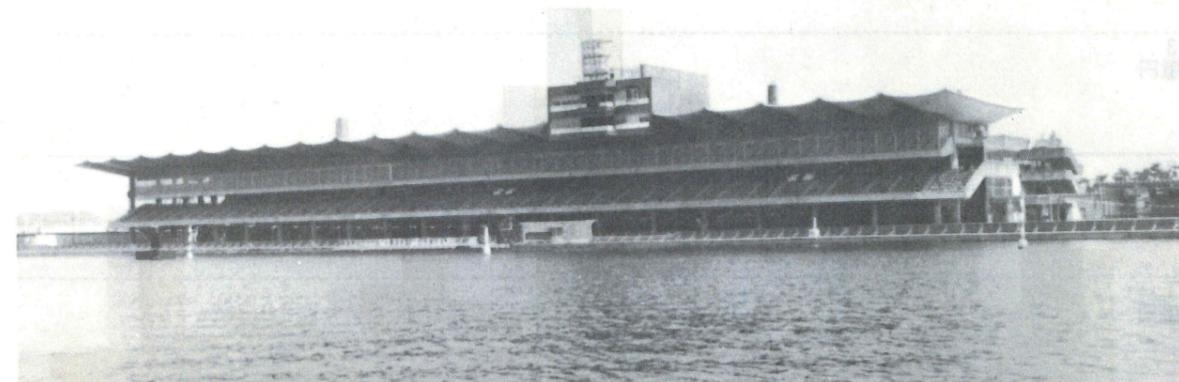
●芦屋、津競走場移転す

昭和44年度の全国平均1日売上は8,580万円、1日平均で2億円を越える競走場は住之江、尼崎、1億円を越える競走場は戸田、平和島、多摩川、福岡の4競走場を数えるまでに成長した。

1日最高売上もつぎつぎと更新され、住之江競走場では45年1月1日、2日と連続して7億円を越える売上を記録した。この年、4月に芦屋競走場、6月には津競走場が移転した。特に津競走場のしょげな建物は従来の競走場のイメージを一新するデザインで関係者の注目を集めた。

両競走場とも移転後、順調に売上を伸ばし、津競走場は昭和43年度の売上3,260万円に比し、44年度5,220万円、45年度7,110万円、46年度9,160万円と好調に推移し、芦屋競走場も43年度の3,310万円に比し44年度4,640万円、45年度5,620万円、46年度7,640万円と売上を伸ばした。ちなみに芦屋競走場の総工費は12億円、津競走場は14億円であった。

▼昭和56年7月撮影



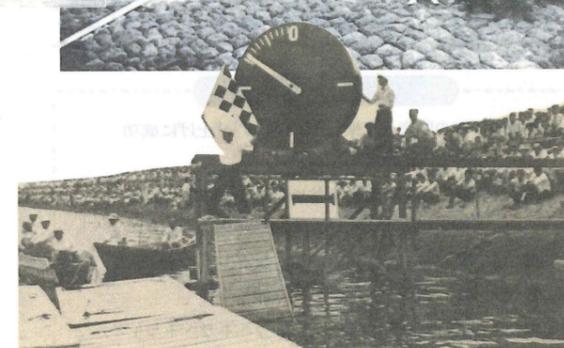
◀ピット、スタンド



主審▼

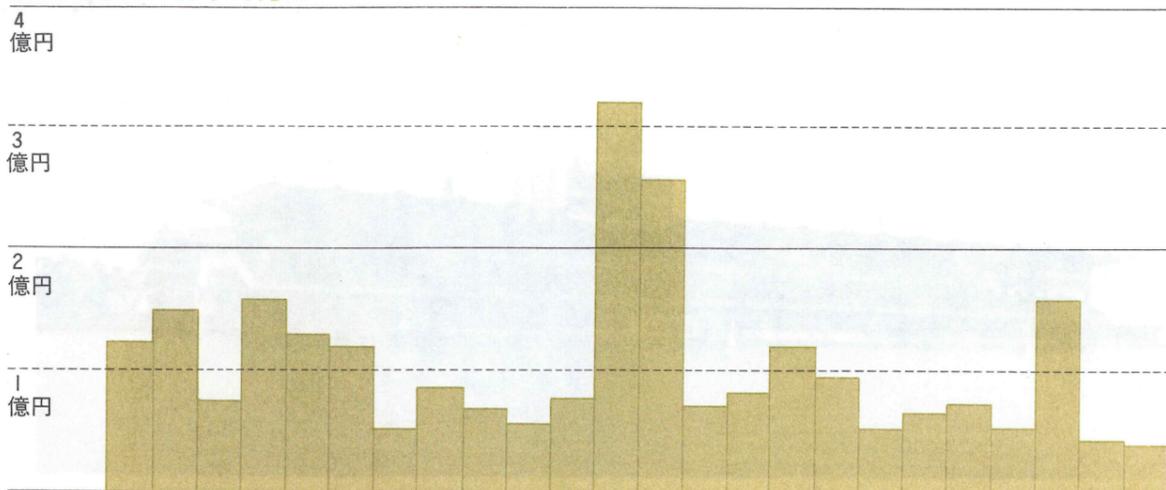


▲全景



▲大時計

■競走場別一日平均売上



競走場別1日最高売上ベスト3 ①位 住之江(8億4,584万円) ②位 尼崎(5億4,933万円) ③位 蒲郡(4億6,741万円)

■公営競技別売上額一覧表

単位=百万

競技名	45年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	427,011,462.0	22.9	109,828.1	28.0
競輪	544,238,752.7	16.6	149,352.0	16.9
中央競馬	406,988,821.5	26.0	1,423,037.8	25.6
地方競馬	317,200,272.0	13.6	146,784.0	15.1
オートレース	72,408,992.3	18.9	114,501.6	14.2

世相トピックス

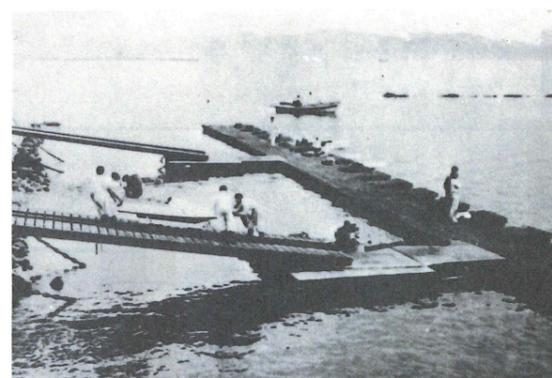
- 政治・経済 初の国産人工衛星「おおすみ」打上げに成功
日本万国博覧会開催
- 一般・社会 三島由紀夫の市ヶ谷駐とん地襲撃事件
東京の銀座・新宿などで歩行者天国スタート
- 流行語 鼻血ブー しらける スキンシップ
- 流行歌 走れコウタロー 知床旅情
- その他 SLブーム 映画「トラ・トラ・トラ」

●一日平均売上1億円を超える

モーターボート競走の1日平均売上は、遂に1億をオーバーし、1億980万円となった。

「競輪に追いつけ、追いこせ」は、関係者の努力目標であったがようやく近づくにつつあった。競輪が1億円を越えたのは昭和43年度であるから2年遅れで1億円を達成したことになる。10年前の昭和35年度モーターボート競走の820万円に対し、競輪が2,050万円であったことを思えば、モーターボート競走がいかに急成長を遂げているか知れよう。

下関競走場は施設改善の取り組みが早く、この当時、最も施設の整った部類に入る競走場であった。また、4大競走の開催にも積極的で45年度MB記念、46年度全国地区対抗、48年MB記念、49年度鳳凰賞、50年度MB記念、52年度鳳凰賞と数多く開催し、多大なる売上成果と数々の名勝負を演じてきた。この年MB記念競走の節間売上は8億1,600万円、1日平均売上1億3,600万円に達した。



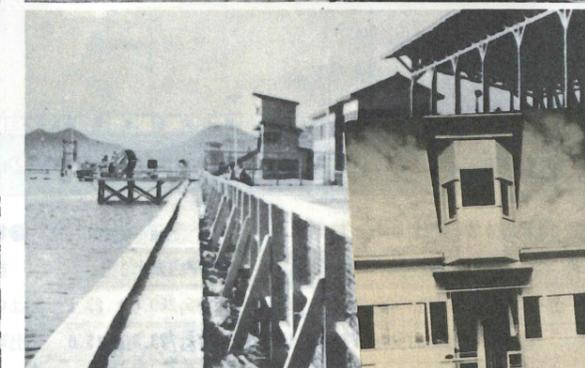
▲ピット



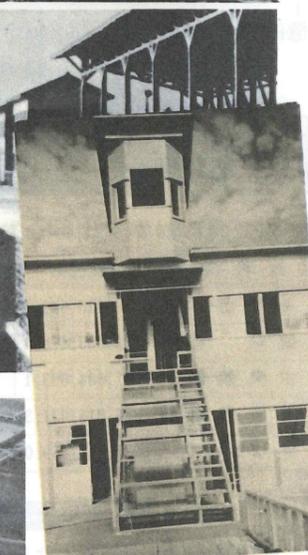
▲競技部



▲艇庫



▲スタンド

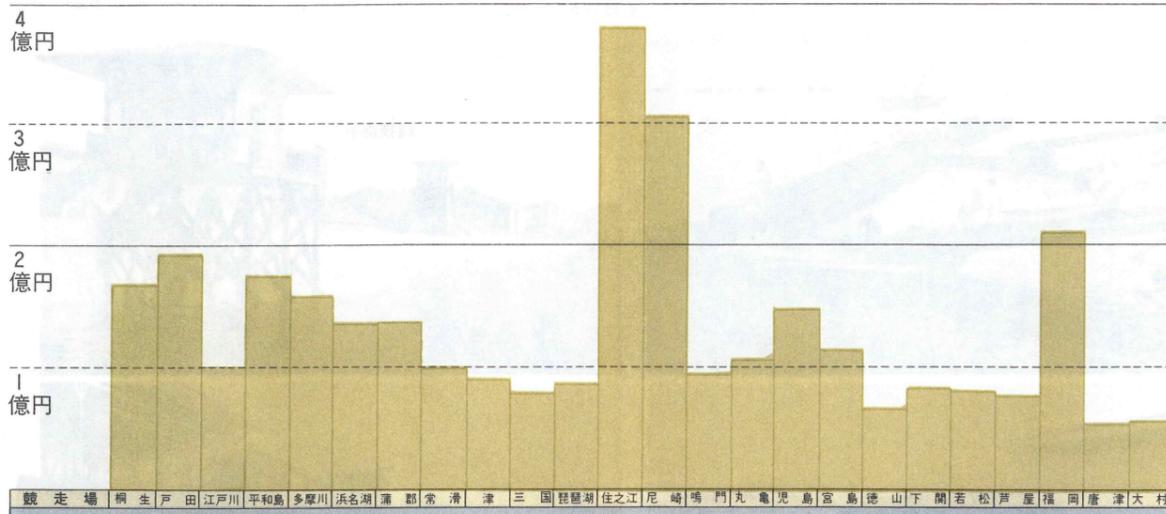


▲主審



▲昭和56年7月撮影

■競走場別一日平均売上



競走場別1日最高売上ベスト3 ①位 住之江(8億8,240万円) ②位 尼崎(6億1,815万円) ③位 福岡(4億8,859万円)

■公営競技別売上額一覧表

競技名	46年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	526,125,682.9	23.2	135,250.8	23.1
競輪	632,685,478.4	16.3	172,723.3	15.6
中央競馬	467,884,083.1	15.0	1,635,958.3	15.0
地方競馬	316,811,831.3	△ 0.1	159,042.1	8.4
オートレース	87,717,859.0	21.1	139,014.0	21.4

世相トピックス

- 政治・経済 ドルショックにより、対ドル・レートの円変動相場制に移行 革新系黒田大阪府知事当選
- 一般・社会 過激派の爆破事件が続発
ゴールデンウィークの人数が200万人
- 流行語 ガンバラなくちゃ ニアミス
- 流行歌 わたしの城下町 また逢う日まで
- その他 Gパン、アーミーラック流行

●桐生競走場にエスカレーターお目見え

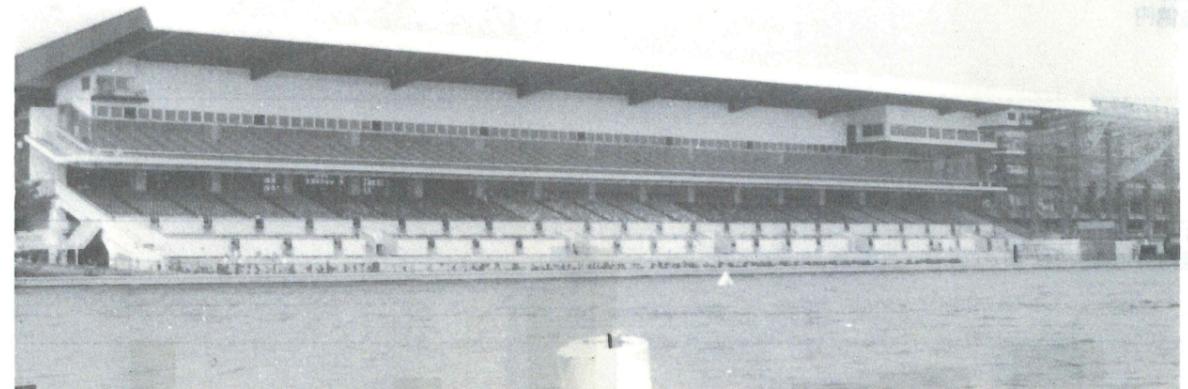
施設改善によって競走場の施設は年々レベルアップしてはいたが、従来からの競走場の概念を脱却する程の施設は出現していなかった。

昭和46年7月1日、桐生競走場の新スタンドがオープンすると、関係者は一様に驚きの声をあげた。ホテルのロビーと見まごうばかりの広々としたロビー、一流レストラン並みの食堂、そしてなによりも驚いたのは幅広のエスカレーターであった。

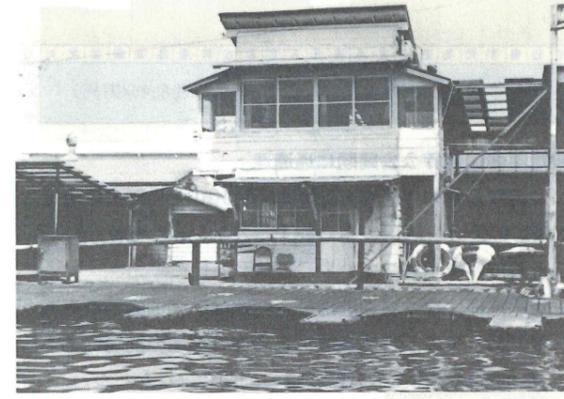
新スタンドはファンにも好評で、売上も急上昇を続け、翌47年度には1日平均売上2億4,100万円に達し、関東では第1位、全国でも住之江、尼崎、福岡に次いで第4位に躍進した。

全国平均の売上伸び率は23.1%と好調であり、1日最高売上記録は浜名湖、蒲郡競走場を除き、各競走場で新記録が1回～6回と続出した。

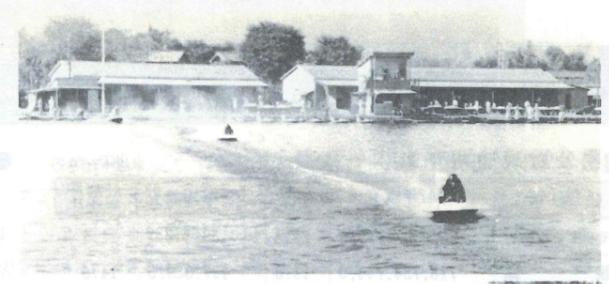
昭和56年7月撮影



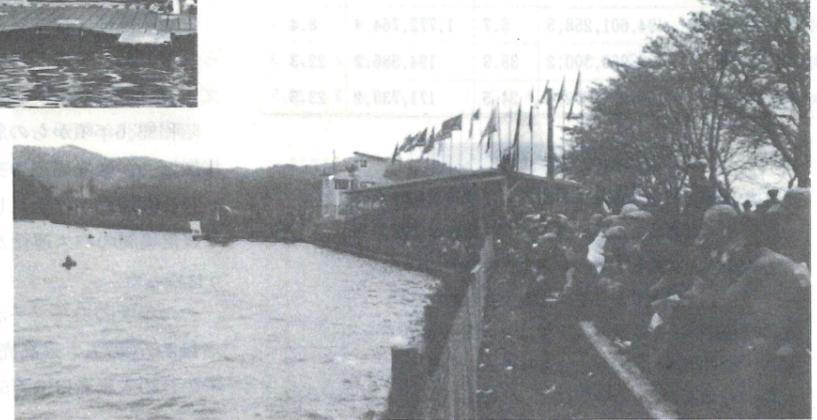
▼競技本部、ピット



▼競技部



▲開場式



▲スタンド

■競走場別一日平均売上

10
億円

5
億円



競走場別1日最高売上ベスト3 ①位住之江(10億6,746万円) ②位浜名湖(7億0,726万円) ③位 尼 崎(6億8,864万円)

■公営競技別売上額一覧表

単位=百円

競 技 名	47年度売上	対前 年比	一日平均売上	対前 年比
モーターボート	654,307,756.3	24.4	168,332.3	24.5
競 輪	718,734,744.0	13.6	197,889.5	14.6
中央競馬	494,601,258.5	5.7	1,772,764.4	8.4
地方競馬	439,959,300.2	38.9	194,586.2	22.3
オートレース	109,224,262.4	24.5	171,736.2	23.5

世相トピックス

- 政治・経済 佐藤長期政権総辞職 田中角栄通産相「日本列島改造論」を発表 沖縄日本に復帰
- 一般・社会 上野動物園でパンダを一般公開 冬期オリンピック札幌大会開かれる
- 流行語 ヘンシーン ナウイ 恥かしながら
- 流行歌 瀬戸の花嫁 せんせい 喝采
- その他 ホットパンツ流行 映画「ゴッド・ファーザー」

●競走開催に伴う公害問題に通達

公営競技全体の年間売上は2兆5,000億円、年間入場者は1億2,400万人に達し、さらに売上は20数%、入場者も6~7%以上の伸びを示していた。

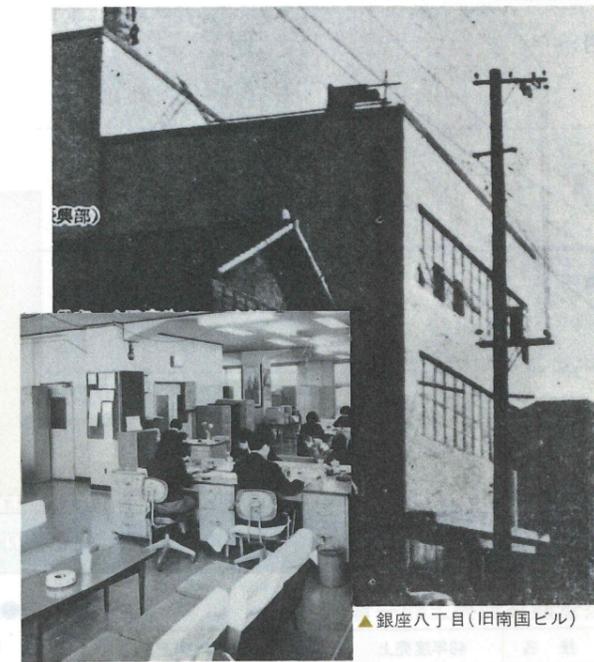
競走開催に伴う交通渋滞等の問題は、開催当初からあったが、あくまでも特定の競走場の近隣地域の問題であった、社会的な問題や全公営競技場の問題ではなかった。

昭和35、6年頃からの急激な入場人員の増加とマイカーの増加は、競走場周辺の交通渋滞、違法駐車、雑踏、騒音等の社会問題を引きおこし、運輸省、通産省は通達で最寄駅と競走場間のバス運行と自家用車自粛PRとを指導するようになった。

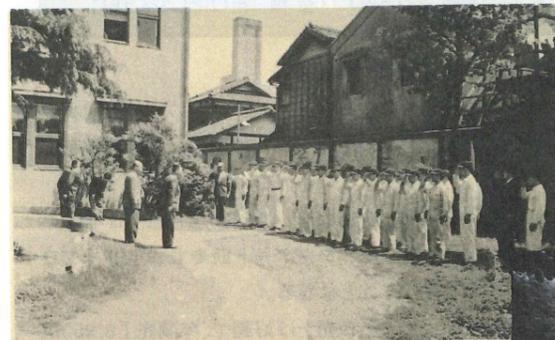
この年度のモーターボート競走の売上は6,500億円、入場者は3,670万人、最高売上は住之江競走場の10億6,700万円、その日の入場者は6万5,000人であった。



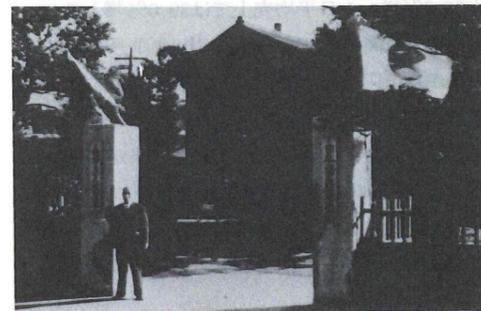
▲ 笹川記念会館



▲ 銀座八丁目(旧南国ビル)



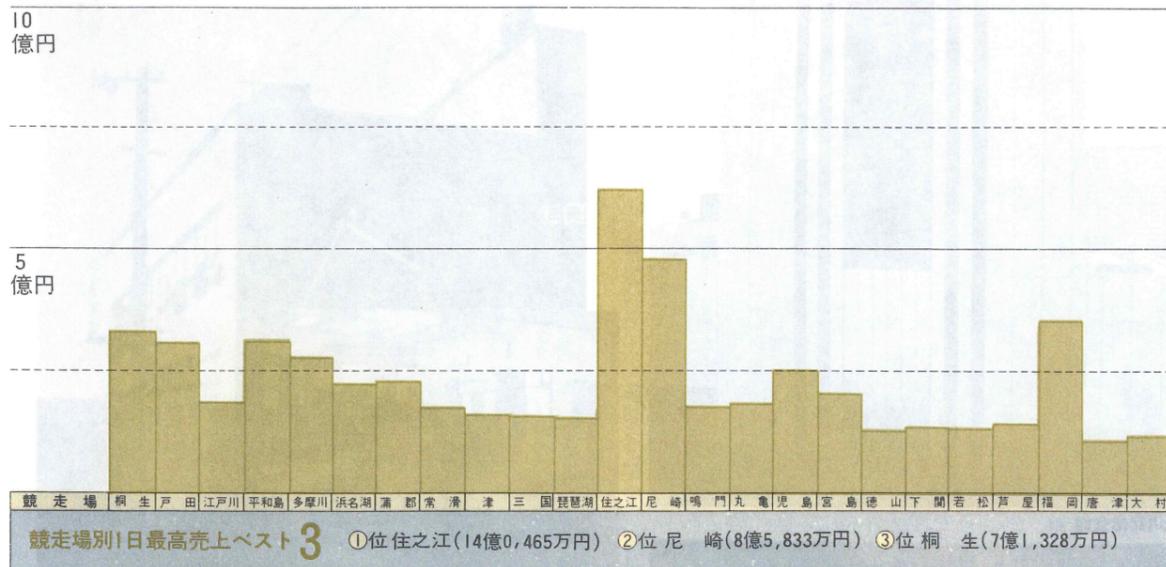
◀ 明石町海員福祉会ビル



▼ 本栖研修所



■競走場別一日平均売上



■公営競技別売上額一覧表

単位=百万円

競技名	48年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	895,648,794.9	36.9	233,911.9	39.0
競輪	916,756,718.7	27.6	254,867.0	28.8
中央競馬	660,542,374.0	33.6	2,301,541.4	29.8
地方競馬	566,150,503.3	28.7	250,731.0	28.9
オートレース	127,435,651.2	16.7	237,753.0	38.4

世相トピックス

- 政治・経済 春闘史上初の交通ゼネスト オイルショックによりトイレットペーパー、洗剤パニック
- 一般・社会 金大中事件おこる 江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞
- 流行語 じつとがまんの子であった ちょっとだけよ
- 流行歌 神田川 なみだの操
- その他 ハイセイコーブーム 映画「燃えよドラゴン」

●史上最高の売上伸び率を達成

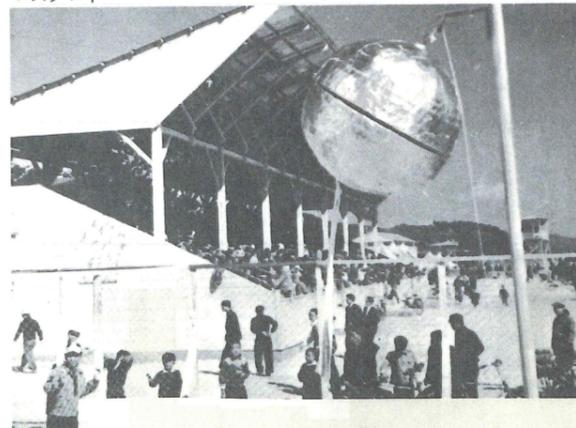
昭和48年10月6日、イスラエルとシリアの間で第四次中東戦争が勃発した。それだけであれば遠い異国での戦争で日本とはたいした関係もない出来事であった。

しかしこの戦争は、石油ショックを引き起こし、日本はその渦中にまきこまれ、モーターボート競走も49年1月1日から10レース制をしることになる。

しかしながら、この年の売上は好調で、年間売上8,950億円と対前年比36.9%増、一日平均売上では39.0%増とモーターボート競走史上最高の伸び率を達成、49年1月3日には住之江競走場が14億円を売上げ中央競馬を除く公営競技の1日最高売上記録を達成した。

宮島競走場では、賃金問題がこじれて11月10日から無期限ストに入り、この年度60日間の開催中止を行い、未だ解決を見ていなかった。このストライキは新年度に入った4月に解決し、5月23日からレースが再開されることになる。

▼スタンド



▼ピット

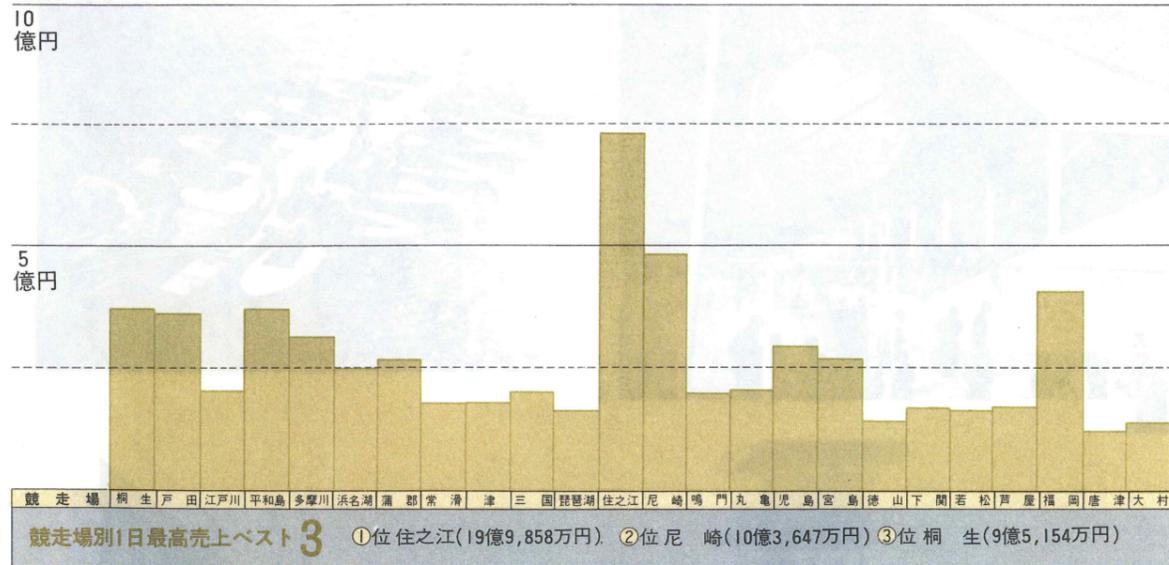


第2副審、スタンド▲



▲競技部

■競走場別一日平均売上



■公営競技別売上額一覧表

単位=百円

競技名	49年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	1,078,697,545.9	20.4	270,214.8	15.5
競輪	1,090,571,752.7	19.0	294,589.9	15.6
中央競馬	776,460,912.2	17.5	2,854,635.7	24.0
地方競馬	677,582,061.1	19.7	302,627.1	20.7
オートレース	154,038,187.3	20.9	271,672.2	14.3

世相トピックス

- 政治・経済 金脈問題で田中政権崩壊
- 一般・社会 上野国立博物館で「モナリザ展」開かれる
三菱重工ビル爆破事件
- 流行語 カモメのジョナサン
- 流行歌 二人でお酒を 襟裳岬
- その他 長島選手現役引退

●唐津競走場移転す

石油ショックに端を発する不況、インフレ、国際収支の不均衡は企業の倒産、人減らしを呼び、日本経済は石油をめぐって木の葉の舟のようにゆれ動いた。

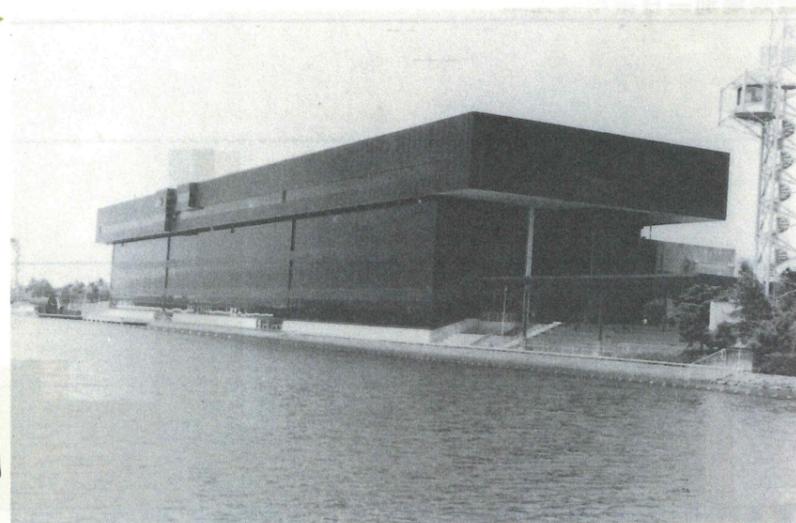
この不安定な経済状況の中にあって、公営競技の売上は比較的順調に推移し、モーターボート競走の売上は対前年度比20.4%増で総額1兆円を越し、1日平均売上は2億7,000万円を越えた。

年度もおし寄せまった49年3月8日、唐津新競走場がオープンした。これまでも浜名湖、三国、芦屋競走場等が移転しているが、唐津競走場はその規模と施設内容において他場を大きく引きはなしている。

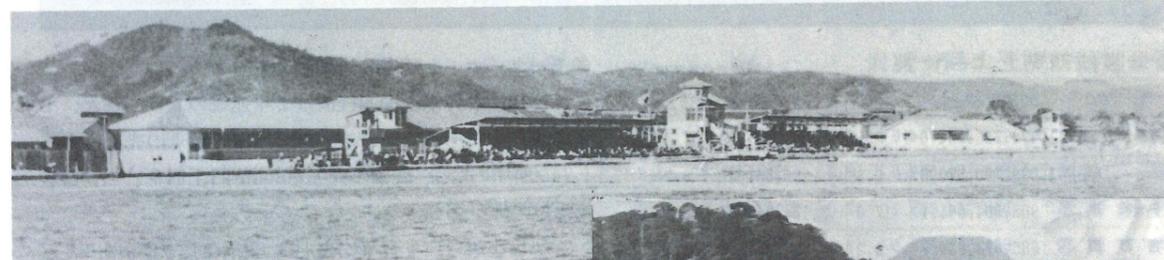
広々とした公園、完全冷暖房のスタンドは郊外型の競走場として理想的な施設であった。

ちなみに、移転に要した費用は107億円を越えたという。

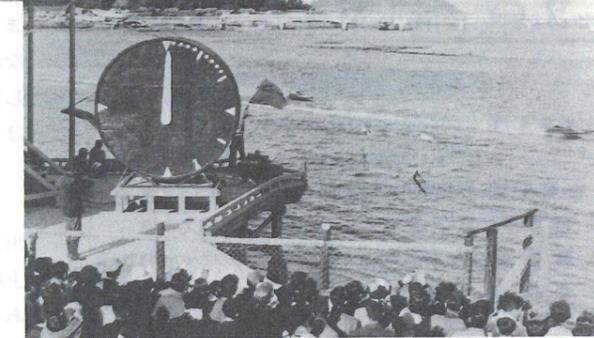
昭和56年7月撮影



全景

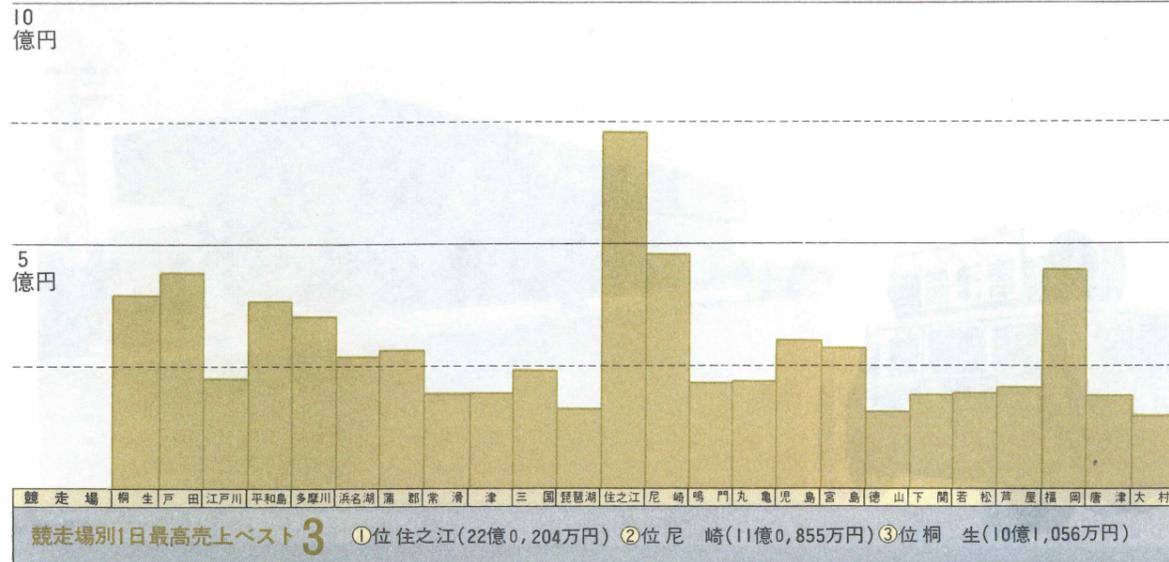


▲スタンド



▲大時計

■競走場別一日平均売上



■公営競技別売上額一覧表

競技名	50年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	1,174,533,764,6	8.9	291,303,0	7.8
競輪	1,093,790,570,5	0.3	296,661,4	0.7
中央競馬	908,364,665,1	17.0	3,154,044,0	10.5
地方競馬	685,673,829,5	1.2	306,104,4	1.1
オートレース	165,122,193,3	7.2	284,693,4	4.8

世相トピックス

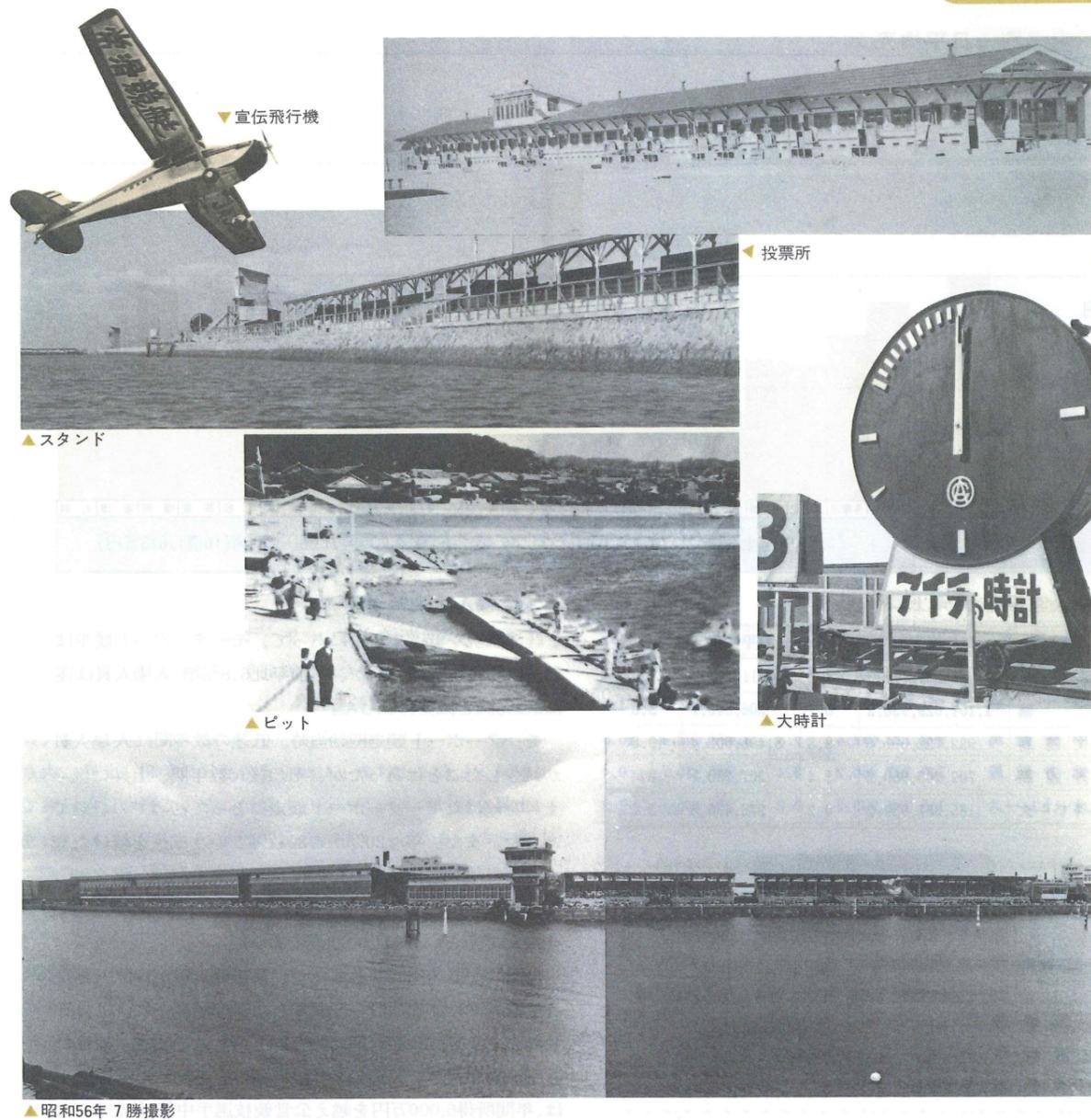
- 政治・経済 日本赤軍の幹部を超法規解釈で釈放
天皇、皇后両陛下御訪米
- 一般・社会 沖縄海洋博覧会の開催 新幹線が博多まで開通
- 流行語 チカレタビー あんたあの娘のなんなのさ
- 流行歌 およげ!たいやきくん シクラメンのかほり
- その他 テレビ「パンチDEデート」

●モーターボート競走公営競技のトップへ

世界経済の停滞、国内経済は2年連続のゼロ成長と、不況の真只中であつたが、モーターボート競走の売上は1兆1,745億円に達し、競輪の売上を800億円上回り、公営競技第1位の売上となった。

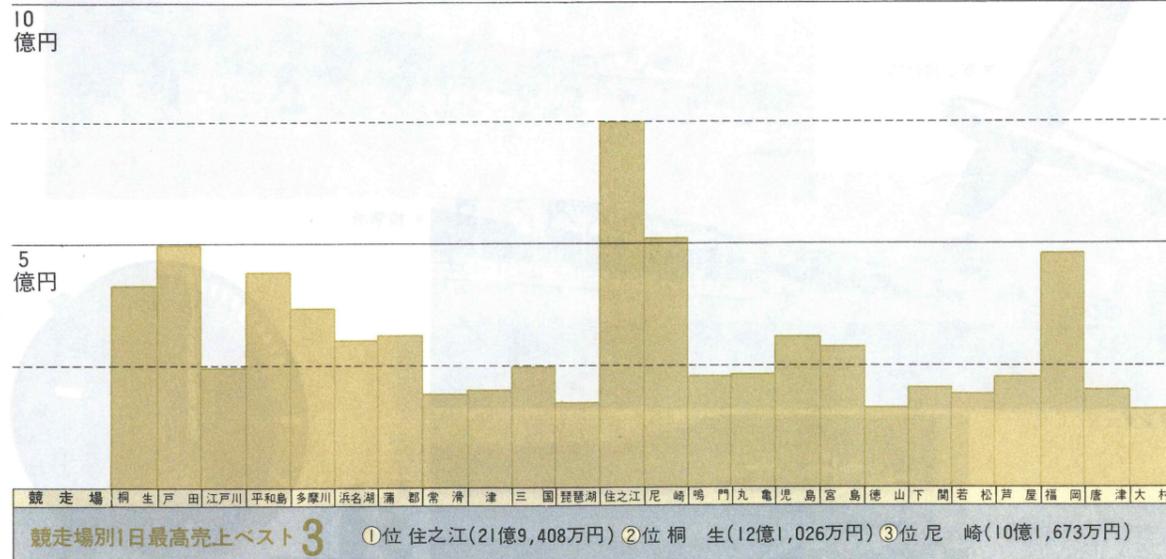
しかしながら、1日平均売上は、対前年比7.8%増にとどまり、遂に10年間続いた2桁の伸び率を達成することはできなかった。また、1日平均入場者は前年度の11,125名に対し11,163名とほぼ横這いになり、これまでのような急成長は望めない状況になった。

この年、第2回笹川賞競走が常滑競走場で開催された。ファンの投票により選出された選手によって争われる笹川賞競走は、人気上々で節間30億円、1日平均5億円を売上げた。この年度の常滑競走場の1日平均売上が2億円であつたことからしてその人気の程が知れよう。



▲昭和56年7勝撮影

■競走場別一日平均売上



■公営競技別売上額一覧表

競技名	51年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	1,258,281,790,0	7.1	311,147,8	6.8
競輪	1,101,629,936,2	0.7	306,348,7	3.3
中央競馬	992,722,691,4	9.3	3,495,502,4	10.8
地方競馬	709,203,960,2	3.4	307,280,7	0.4
オートレース	165,387,939,2	0.2	278,430,8	△ 2.2

世相トピックス

- 政治・経済 ロッキード事件表面化 新自由クラブ誕生
- 運輸省、造船不況の為40社に操業短縮勧告
- 一般・社会 中央高速道路開通 函館空航にソ連の「ミグ25」が強制着陸 若い母親による捨て子続発
- 流行語 黒いピーナッツ 記憶にございません
- 流行歌 北の宿から 山口さんちのツトム君
- その他 鹿児島で5つ子誕生

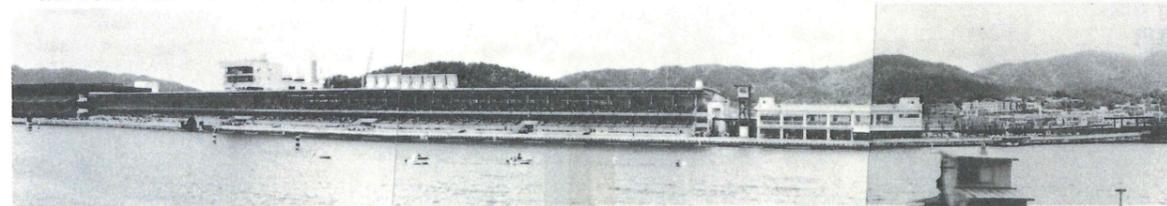
●入場人員減少に転ずる

経済状況が低迷する中において、モーターボート競走は懸命に頑張っていたが、対前年比6.8%増、入場人員は遂に2.2%減と減少に転じた。

モーターボート競走開始当時、低迷の数年間に入場人員が減少したことはあったが、その後10数年間、上昇に次ぐ上昇を続けたモーターボート競走にとって初めての経験であった。また、年々20%から30数%という成長を続けた売上もこの年10%以上伸びたのは、平和島、戸田、浜名湖、蒲郡、江戸川の5場で、わずか2場ではあるが減少した競走場がでるといふ厳しい状況であった。

全国的な低迷傾向はあったが、蒲郡競走場が18億円を投じて新スタンドを増設して開催した第23回ダービーは、1日最高売上9億1,200万、節間売上39億円と気を吐き、初日から圧倒的な強さを発揮してこのダービーを制した野中選手は、年間所得6,000万円を越え公営競技選手中第1位となった。

▼昭和56年7月撮影



▼笹川会長訓示



主審▶

▼デモンストレーション



▲競走場予定地

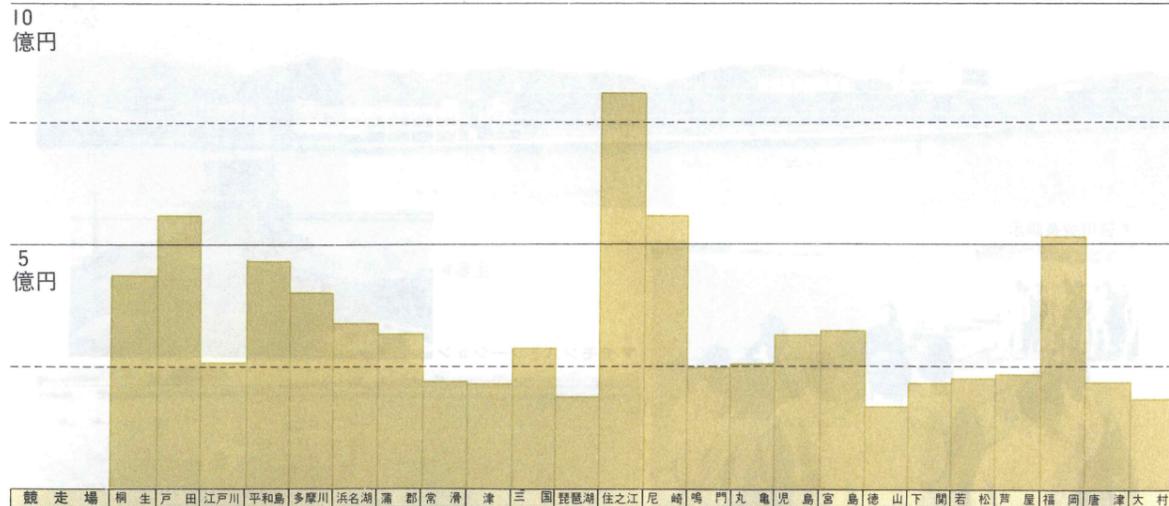


▲全景



▲入場式

競走場別一日平均売上



競走場別1日最高売上ベスト3 ①位 住之江(25億7,773万円) ②位 桐生(11億8,626万円) ③位 尼崎(10億7,477万円)

公営競技別売上額一覧表

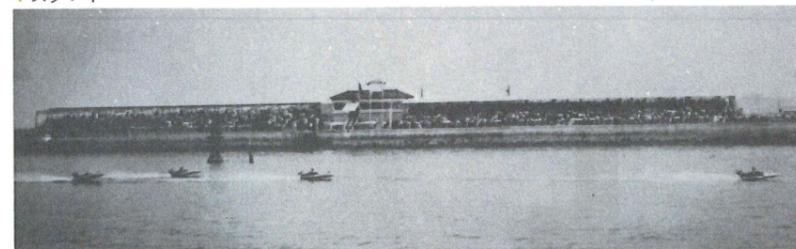
単位=百万円

競技名	52年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	1,369,635,251.5	8.8	333,731.8	7.3
競輪	1,151,828,798.9	4.6	320,219.3	4.5
中央競馬	1,099,161,284.1	10.7	3,816,532.2	9.2
地方競馬	725,648,484.0	2.3	311,437.1	1.4
オートレース	187,177,921.1	13.2	289,749.1	4.1

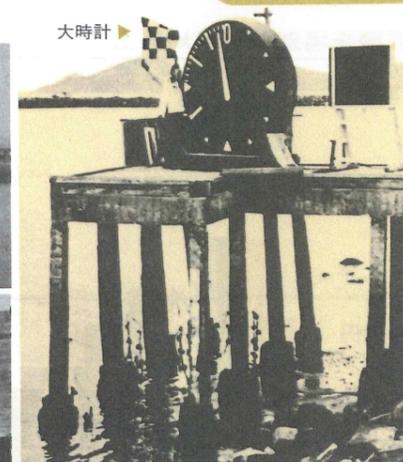
世相トピックス

- 政治・経済 領海12カイリ、漁業専管水域200カイリ時代へ 社会民主連合が発足
- 一般・社会 王選手本塁打で世界最高756号達成、国民栄誉賞第1号
- 流行語 たたりじゃー 翔んでる ○○の証明
- 流行歌 津軽海峡冬景色 ウォンテッド
- その他 カラオケブーム 映画「八甲田山」

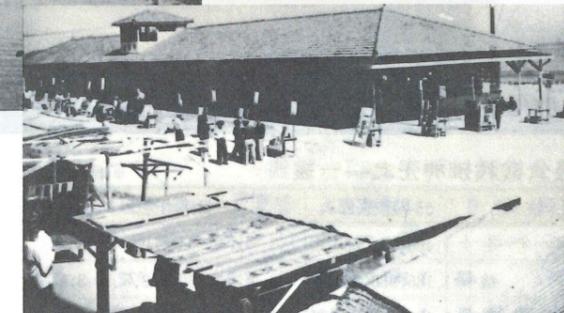
▼スタンド



▶大時計



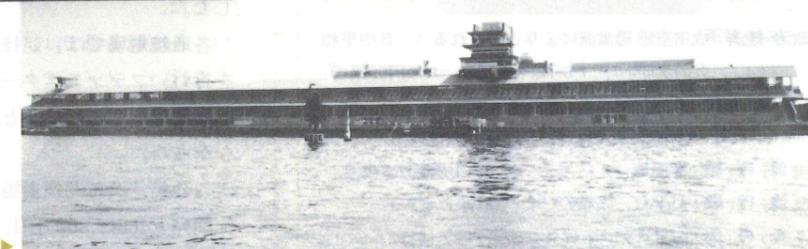
◀ピット



▲投票所



▲主審・執行本部



昭和56年7月撮影▶

●丸亀、鳳凰賞で10億円を売上げる

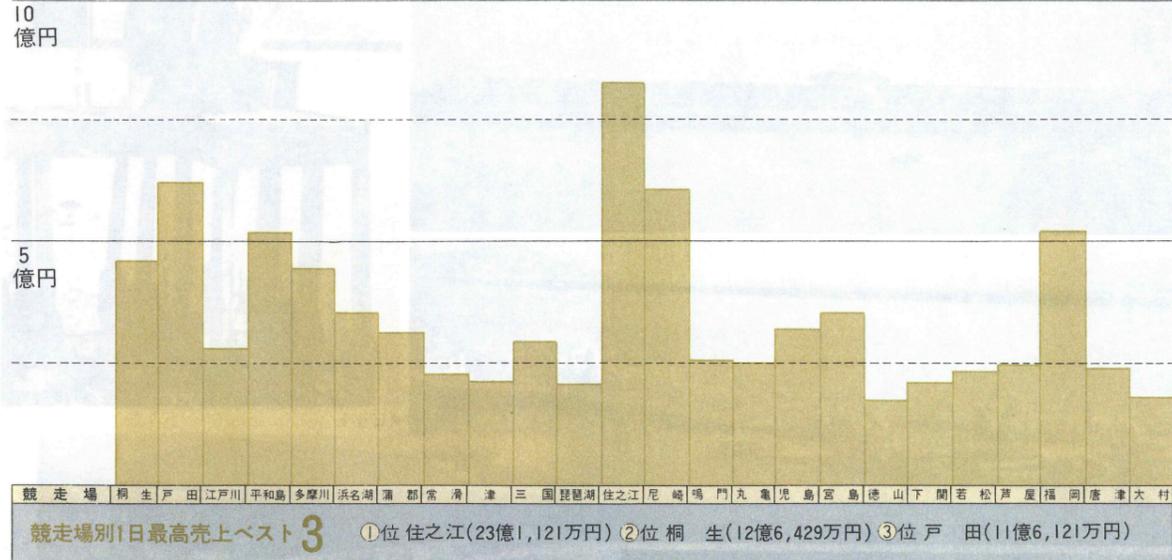
公営競技全体の売上は4兆5,400億円と巨大な金額になり、モーターボート競走は、その約3分の1に当たる1兆3,700億円となっていた。この年の公営競技全体の売上伸び率は5.4%、モーターボート競走は7.3%であった。

オイルショックの後遺症が回復しないうちに円高不況が押しよせるという経済環境の中では、健闘しているとは言え、入場者の減少傾向が続いているのは大問題であった。

1日最高売上面では、住之江競走場が12月30日に25億7,700万円を売上げたのを筆頭に10億円以上の競走場が桐生、尼崎、福岡、丸亀、戸田と続いていた。

この年度末、丸亀で開催された第13回鳳凰賞競走は後に「町中がもえていた」と言われる程の盛り上がりを見せ、節間売上38億円、1日最高売上10億3,300万円、1レース売上2億2,000万円と丸亀競走場の全記録を更新したばかりでなく、全モーターボート競走でもトップクラスの記録達成となった。

■競走場別一日平均売上



■公営競技別売上額一覧表

競技名	53年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	1,450,752,656,3	5.9	349,410,6	4.7
競輪	1,185,950,394,4	3.0	330,072,5	3.1
中央競馬	1,136,476,864,3	3.4	3,946,100,2	3.4
地方競馬	734,337,429,8	1.2	315,844,1	1.4
オートレース	200,949,252,7	7.4	310,586,1	7.2

世相トピックス

政治・経済 成田空港過激派により占拠される 日中平和条約調印 円高旋風再び1ドル=175円50銭

一般・社会 「サラ金」による悲劇続出 植村直己犬そりで単独北極点到達

流行語 窓際族 フィーバー 不確実性の時代

流行歌 UFO 君のひとみは100万ボルト

その他 ジョギング、インベーダーゲーム流行

●各地で積極的に売上対策

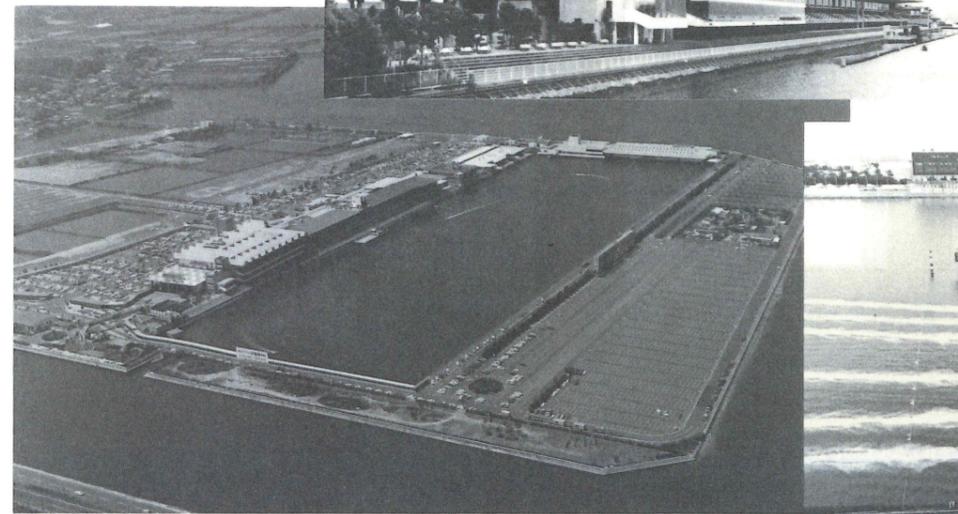
昭和53年度の1日平均売上対前年度比は4.7%増と昭和34年以来最低の伸び率となった。

石油ショックを機として、日本経済の伸び率は著しく低下し、安定成長時代に入ったと言われ、モーターボート競走関係者も競走の将来を楽観していたわけではないが4.7%の伸び率は予測をはるかに下回るものであった。中・四国地区においては6場中3場が対前年比マイナスを記録した。

各地競走場では、競技の演出、PR方法等について検討を行い、ファンモニター制度、テレビ、スポーツ紙の積極的な利用などの対策がとられたが思うような成果はあがらなかった。

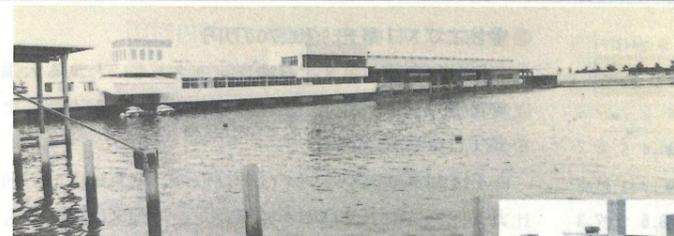
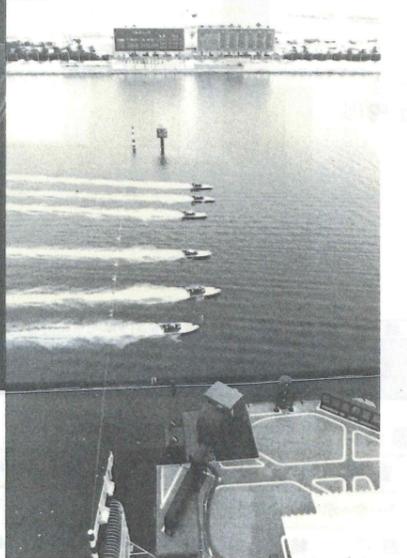
この年、浜名湖競走場で第14回鳳凰賞競走が開催され、節間売上46億9,800万円、1日最高売上11億4,900万円、優勝戦売上3億1,700万円と従来の売上記録すべてを更新した。

▼昭和42年航空写真



◀全景

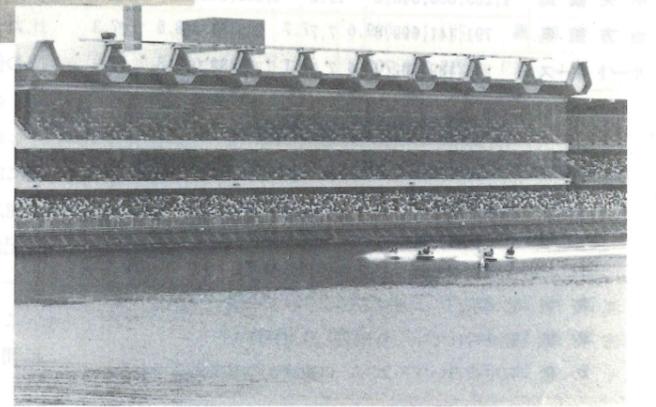
大時計、日付板▼



▲競技部

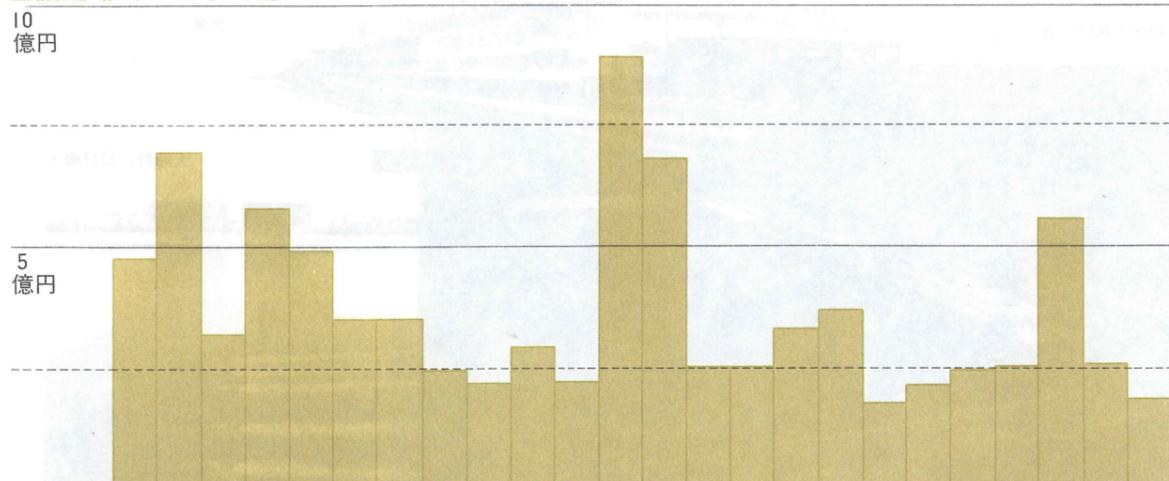


▲入場門



▲スタンド

■競走場別一日平均売上



競走場別1日最高売上ベスト3 ①位 住之江(29億1,702万円) ②位 尼崎(14億7,419万円) ③位 平和島(14億3,342万円)

■公営競技別売上額一覧表

単位=百万円

競技名	54年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	1,555,296,384.2	7.2	374,589.6	7.2
競輪	1,244,936,328.4	5.0	347,456.4	5.3
中央競馬	1,263,830,648.2	11.2	4,388,300.9	11.2
地方競馬	791,141,099.6	7.7	338,818.5	7.3
オートレース	215,189,702.4	7.1	332,082.8	6.9

世相トピックス

- 政治・経済 先進国首脳会議東京サミット開催
元号法成立
- 一般・社会 東名高速日本坂トンネルで大事故
国際電信電話公社密輸事件摘発
- 流行語 省エネ エガワる うさぎ小屋
- 流行歌 魅せられて 与作 夢追い酒
- その他 天中殺占いブーム 口裂け女の噂広まる

●住之江で1日売上29億1,700万円

昭和54年度は、第2次石油ショックともいわれる大幅な原油価格の上昇があり、これに伴いインフレが進行したが景気は回復基調にあった。

売上は関東地区を除いては伸び悩み、関東地区は対前年比11.2%と二桁の伸び率を確保したが他地区はいずれも一桁の伸び率にとどまり、特に中・四国地区、九州地区は3.7%、4.7%と2年連続の低い伸び率となった。

しかしながら、1日売上記録では住之江競走場が12月30日に29億1,700万円の売上新記録を達成した。

住之江競走場は、昭和40年に1億4,800万円の1日売上最高記録を達して以来トータルでも1日最高売上でも15年間モーターボート競走業界のトップに立ち続けている。

この年、住之江競走場の1日平均売上は8億8,900万円、年間トータルは1,691億円に達した。



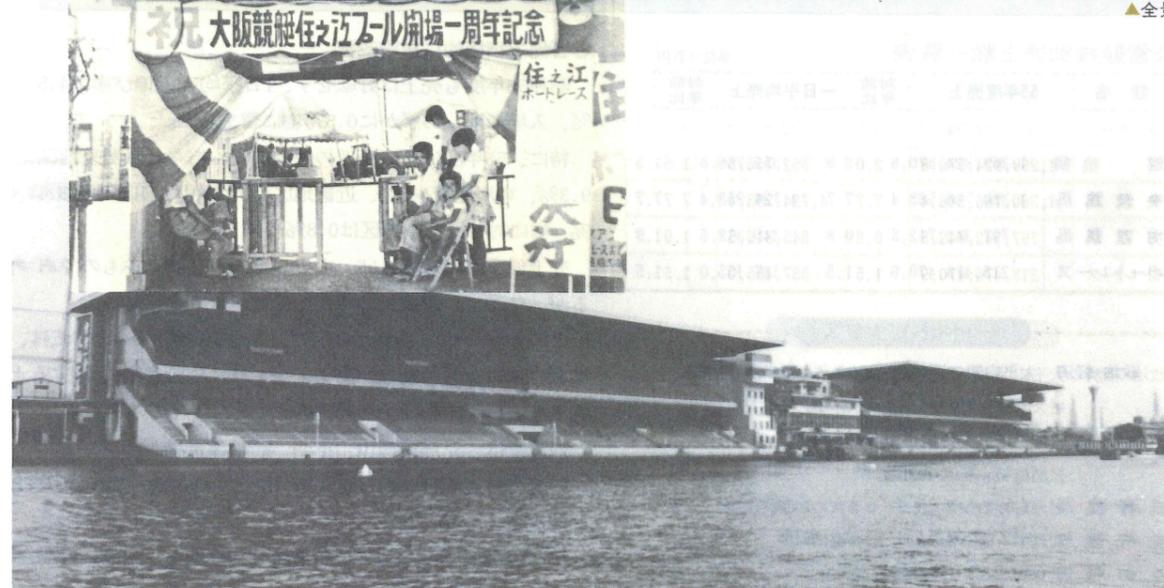
▲ピット



▲投票所



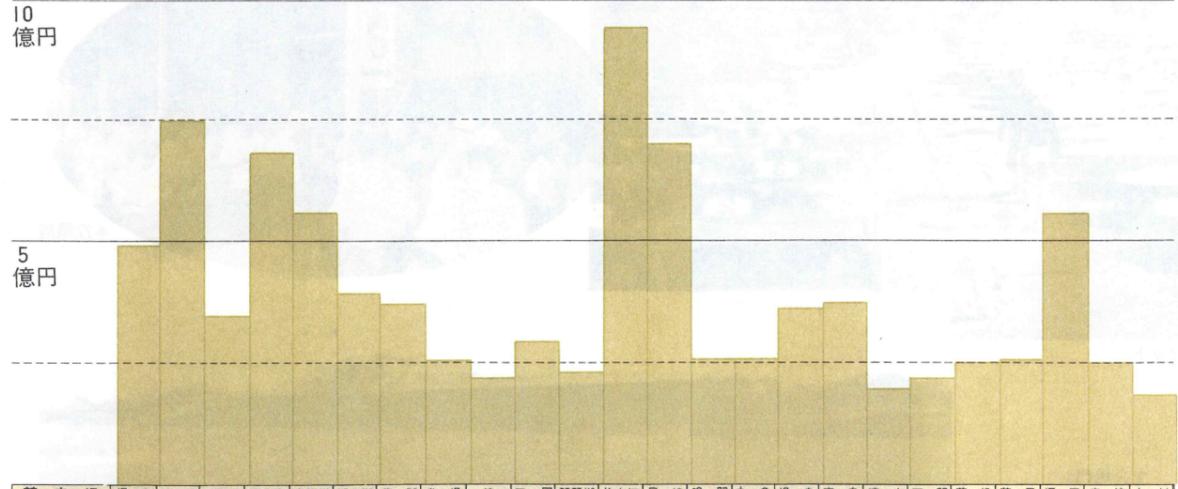
▼入場門



▲全景

昭和56年7月撮影 ▲

■競走場別一日平均売上



競走場別1日最高売上ベスト3 ①位 住之江(28億5,745万円) ②位 戸田(15億6,325万円) ③位 平和島(14億0,282万円)

■公営競技別売上額一覧表

競技名	55年度売上	対前年比	一日平均売上	対前年比
モーターボート	1,630,961,345.2	4.9	392,813.4	4.8
競輪	1,269,924,570.8	2.0	352,756.8	1.5
中央競馬	1,360,786,588.4	7.7	4,724,953.4	7.7
地方競馬	797,342,742.5	0.8	345,319.5	1.9
オートレース	218,476,470.9	1.5	337,155.0	1.5

世相トピックス

- 政治・経済 大平内閣の不信任案が成立し衆参両院同時選挙
モスクワオリンピックをボイコットする
- 一般・社会 一億円の遺失物拾得事件
長島監督、王選手引退
- 流行語 ビカビカの一年生 カラスの勝手でしょう
- 流行歌 別れても好きな人 雨の慕情
- その他 テレビ「3年B組金八先生」

●各地で積極的に施設改善

昭和55年度も売上は好転せず、1日平均売上伸び率は4.5%、入場者は、わずかに0.5%増に留まった。

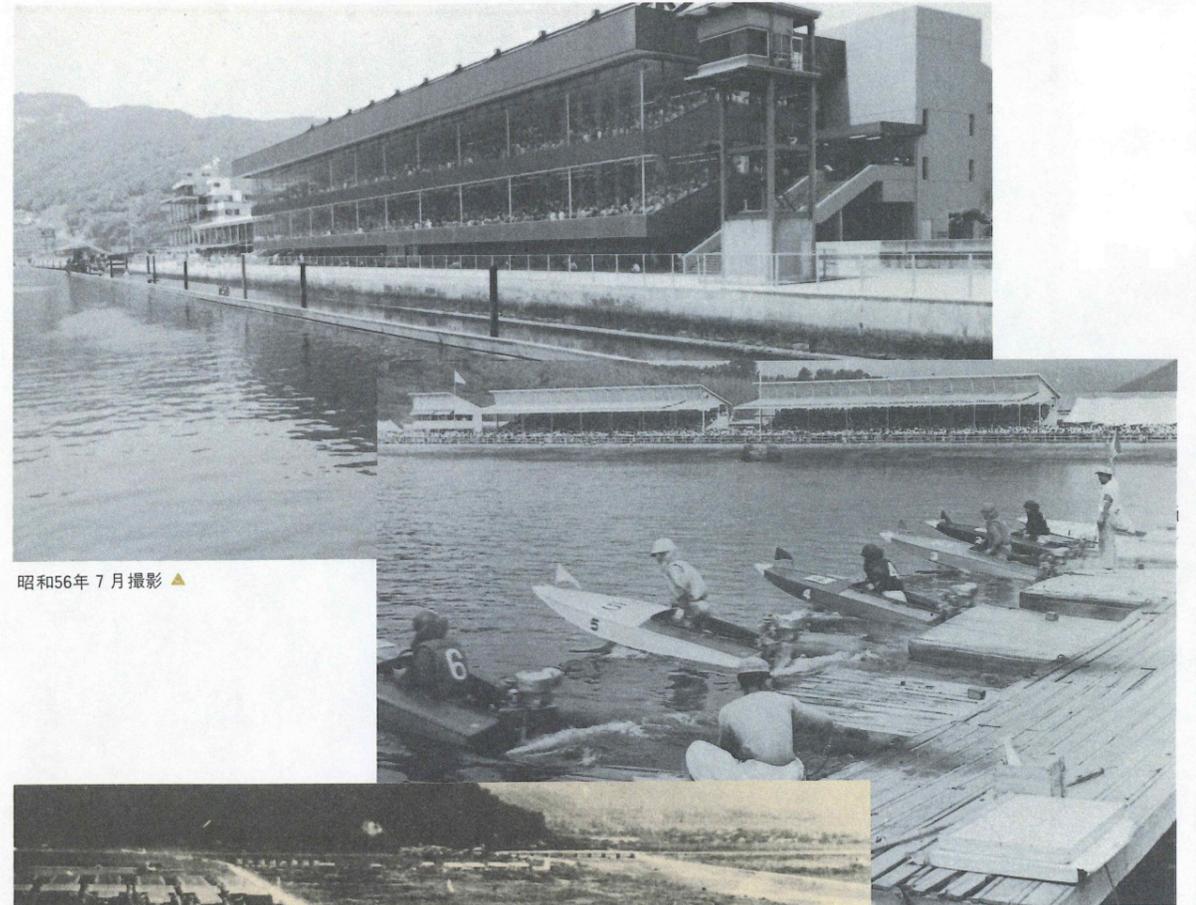
特に、55年度は東高西低の傾向が強くあられ関東地区9.3%、東海地区4.8%、近畿地区4.0%、中・四国地区3.4%、増に対し、九州地区は0.8%の減となった。

売上伸び率から見れば、中央競馬の7.7%に次ぐものであるが、かつての急成長の時代とは比べるべくもない。

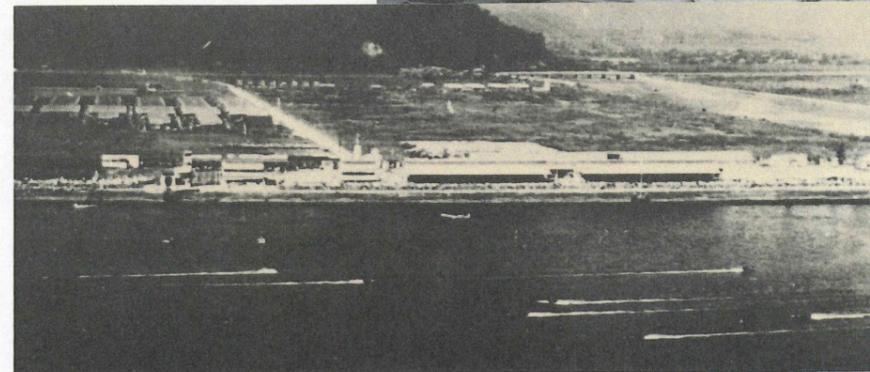
このような状況の中にあつて、各地競走場においては、第2の施設改善の動きが出て来ており、施設を改善すると売上も上昇するという傾向が顕著にあらわれている。

最近では、児島、徳山、下関、若松競走場がスタンドの一部建て換えを行い面目を一新、ファンの好評を得て売上を伸ばしている。

徳山競走場は、この年対前年比12.7%増と平和島競走場に次いで全国第2位の売上伸び率となった。



昭和56年7月撮影 ▲



▲ピットスタンド

▲全景